



CLEANUP SUSTAINABILITY REPORT 2023

クリナップ | サステナビリティレポート



キッチンから、笑顔をつくろう

CONTENTS

- 2 トップメッセージ
- 3 経営理念
- 4 経営思想
- 5 Our History
- 7 社長メッセージ
- 11 サステナビリティマネジメント

13 MATERIALITY 1 製品・サービスなどを通じた 暮らし価値の提供

- 13 クリナップの暮らし価値とものづくり
- 14 産学共同研究「未来キッチンラボ」
- 15 清潔・健康に配慮した製品開発
- 16 環境に配慮した製品開発
- 17 品質保証
- 17 お客さまサポート
- 18 お客さまとのコミュニケーション

19 MATERIALITY 2 働きやすい職場づくり

- 19 働きやすい職場づくりに向けた
クリナップの考え方
- 19 ワークライフバランス
- 21 ダイバーシティ&インクルージョン
- 22 人材育成
- 24 労働安全衛生

25 MATERIALITY 3 環境保全と環境負荷軽減

- 25 環境マネジメント
- 26 環境担当役員インタビュー
- 28 環境課題とマテリアルバランス
- 29 気候変動への取り組み
- 31 資源循環の推進
- 33 水資源の有効利用
- 33 環境負荷の軽減

34 MATERIALITY 4 公正で誠実な企業活動

- 34 コーポレート・ガバナンス
- 37 内部統制
- 37 コンプライアンス
- 38 リスクマネジメント
- 38 CSR調達
- 39 人権の尊重
- 40 社会とのかかわり
- 41 第三者意見
- 42 会社概要

編集方針

クリナップは、企業理念「家族の笑顔を創ります」のもと、キッチンを起点とした事業を通じて社会への貢献と中長期的な企業価値向上を図っていきます。本レポートは、当社グループを取り巻く幅広いステークホルダーの皆さまと、さらなる対話のきっかけとなることを目的に、クリナップのサステナビリティに関する考え方やESG・SDGsにかかわる2022年度の取り組みを、重要課題(マテリアリティ)に沿ってお伝えします。

対象組織

・クリナップ株式会社
・株式会社クリナップステンレス加工センター
(野田工場、鹿島アート工場)
・井上興産株式会社
・クリナップロジスティクス株式会社
・クリナップテクノサービス株式会社
・クリナップキャリアサービス株式会社
・クリナップハートフル株式会社
・クリナップソリューション株式会社
・可麗娜厨衛(上海)有限公司

環境データの対象範囲

原則として、クリナップ株式会社
(本社および生産部門)、
株式会社クリナップステンレス加工センター、
クリナップロジスティクス株式会社

対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日
一部対象期間外の報告を含んでいます。

発行年月

2023年9月(前回発行：2022年9月)

参考ガイドライン

・GRI「GRIサステナビリティ・レポーティング
スタンダード2016/2018/2019/2020/2021」
・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
・「ISO26000」

問い合わせ先

経営企画部 サステナビリティ推進課
Eメール：grp.sdgs@cleanup.jp



トップメッセージ

企業理念

「家族の笑顔を創ります」の 実現に向けて

クリナップの創業は1949年。

長年にわたりキッチンをはじめとする水まわり商品をつくり、
家族の暮らし方を提案してきました。

“私たちは何のために存在し、企業活動を続けるのか”。

この基本となる考えを表すのが企業理念「家族の笑顔を創ります」であり、
クリナップの企業活動のすべてが、この理念の実現に向けられています。

今なおクリナップが存続していただけるのは、社会に生かされ必要とされてきたからこそであり、
その謙虚な心なくして、私たちの未来はないと考えています。

社会は、気候変動や生物多様性などの環境課題をはじめ、コロナ禍によって
もたらされた生活様式の変容、DX(デジタルトランスフォーメーション)による
ビジネス変革などによって、大きな転換期を迎えています。
さらに、国際紛争は、多くの国や地域に甚大な影響を及ぼし、
供給リスクの要因となっています。

このような混沌とした社会状況のなか、私たちは企業存続と同時に
「社会の公器」としての自覚を持ち、持続可能な社会の実現に貢献していかなければなりません。
そこで将来を見据えた長期ビジョン「クリナップサステナブルビジョン2030」を策定しました。
重要課題(ESG・SDGs)の解決をベースに、クリナップグループの強みを活かして
長期的目線で経営に取り組んでいます。
クリナップグループは、経営としての事業活動のなかに、さらなる企業価値の向上と
持続的成長を掲げ、企業理念「家族の笑顔を創ります」の実現に向けて邁進してまいります。



代表取締役会長
井上 強一



代表取締役 社長執行役員
竹内 宏

経営理念

当社では「創業者理念」「企業理念」「行動理念」の3つを理念として定めています。

最上位には創業者が求めた五つの経営信条である創業者理念「五心」を掲げ、その信条を学んだ社員達が定めた企業理念が「家族の笑顔を作ります」です。クリナップの企業活動のすべてが、この企業理念の実現に向けられています。さらに、社員たちが日々行動するための価値基準を行動理念として定めることで企業理念の実現方法を具体化しています。

創業者理念「五心」

一、創業の心

我々は一家一族の精神に則り喜びも苦しみも顔合わせ
永遠に発展する会社をつくらねばならぬ。

一、親愛の心

親愛の心は家庭・企業・社会の基である。
人との心の繋がりを大切に、信頼し努力しあって生きよ。

一、創意の心

創意・開発は我が社の生命である。この心を忘れることなく
会社の繁栄をはかり社会に貢献せよ。

一、技術の心

新たな市場の創出のため、広く技術を内外に求め
集約せよ。そして技術を生む知恵を磨け。

一、使命の心

我が社の使命は社業を通じ社会に奉仕する
ことにあつた。常に感謝の心を忘れることなく
邁進せよ。

創業者理念
「五心」

企業理念
「家族の笑顔を作ります」

行動理念

1. 私たちは、心豊かな食・住文化を作ります
2. 私たちは、公正で誠実な企業活動を買います
3. 私たちは、自らの家族に誇れる企業を作ります

企業理念

「家族の笑顔を作ります」

この理念は、クリナップが現在、あるいは将来において実践する活動の方向性や領域、提供する価値、使命などを凝縮しています。クリナップが何のために存在し、企業活動をするのかの根幹を表し、これを全社員で共有し実践することで本当の笑顔を作り、お客さまや家族、そして社会へと広げていくことを意味しています。

行動理念

1. 「私たちは、心豊かな食・住文化を作ります」
2. 「私たちは、公正で誠実な企業活動を買います」
3. 「私たちは、自らの家族に誇れる企業を作ります」

クリナップの行動理念は、私たち一人ひとりが企業活動の中で日々行動するための価値基準、指針を定めたものです。

1. 「心豊かな食・住文化を作る」ため、常に時代にふさわしい感性を磨き、社会動向や生活者の暮らしを見つめ続けることで、新たな商品やサービスを生み出し、「食と住」このふたつの文化の交点において豊かな暮らし価値をお届けしていきます。
2. 人としての基本的な精神性（「親愛・信頼・感謝」の心、「社会貢献」）や人権を尊重する精神、道徳・法令等の社会規範の遵守を通じて、「公正で誠実」な個人からなる、「公正で誠実」な企業活動を買います。
3. クリナップとしての活動のすべてにおいて、笑顔を決やさず、努力し、仲間をいたわり、社会に向き合うことで「自らの家族に誇れる」企業を目指します。

経営思想

CPS (Cleanup Production System : クリナップ プロダクション システム)

クリナップの経営理念を実現する独自のシステムがCPSです。市場や経済の変化にも柔軟に迅速に対応できる企業体質を構築するために「あらゆる無駄を排除することによって経営効率の向上を図る」ことを基本思想としています。

また、「モノづくり」の発展の要は「人づくり」にあると考え、「モノづくり」の現場でいかなる困難にも力を発揮できる人材、環境や条件を整備することができる人材を育成することもCPSの重要な目的としています。これら「改善活動」と「人材育成」の推進を通じて企業体質の強化を実現するとともにお客さまにご満足いただける「品質」「納期」「価格」「サービス」をご提供できる強い経営体質を追求していきます。

1. 営業／開発

全国に展開する営業担当者やショールームアドバイザーによって、お客さまからのニーズや課題が毎日吸い上げられ、開発や製造、取付・設置の各部門にフィードバックされています。ここで得られた知恵やノウハウ、さまざまな情報は、高度なセキュリティを誇る情報システムに集約され、商品や業務の質の向上に役立てられています。



営業／開発

2. 製造

お客さまからの注文情報は年間数十万件に及びます。そのすべてが、お客さまごとに発行される「生産指示カード」で把握され“世界にひとつのキッチン”がつくられていきます。効率的な生産システムのなかにあつて、人の手による高い技能を必要とする「クラフツマン(熟練工)シップ」が活かされている商品も多く、他社にない独自機能や高い意匠性を実現しています。



製造



物流／取付・設置

サポート／リフォーム

コミュニケーション



4. サポート／リフォーム

5. コミュニケーション

キッチンやシステムバスルームは数十年間、家族とともに年を重ねていきます。ガスや電気機器などを常に安全、快適にお使いいただくためには、専門家による点検や迅速な修理・部品供給が不可欠です。近年はリフォームに関する需要も増加傾向にあり、これらのご要望にも応えられる体制が必要になってきています。私たちクリナップは、商品をご購入いただいたお客さまとのコミュニケーションを絶やさず、いつでも信頼していただけるサービスのご提供を目指しています。

3. 物流／取付・設置

クリナップグループには、工場で作成した商品をより早く、確実にお客さまのもとへお届けする物流関係会社「クリナップロジスティクス株式会社」と、商品の取付・設置や各種サポート、メンテナンス業務を行う関係会社「クリナップテクノサービス株式会社」があります。ともに「CPS」のなかで顧客満足を実現するための重要な一工程を担います。年間数十万セットに及ぶご注文商品をご希望の納期にお客さまへお届けできるのも、グループ一体で技術品質やサービス向上に努めている結果です。

Our History

SYSTEM
KITCHEN

50th

時代とクリナップのモノづくりの変遷

モノの豊かさから心の豊かさへ

日本初のシステムキッチンを発表して50年。ひたすら経済成長を追い求めていた日本にあっても、いつも家族と笑顔がある暮らしをキッチンで支えてきました。今心の豊かさが求められる時代、クリナップは変わらず笑顔を創っていきます。



1960~

モノが豊かな暮らし

誰もがモダンで豊かな食住環境を享受できるようになる

1956 ダイニングキッチンの普及が始まる
1963 日本初の高速道路開通

1980~

個性が尊重される

画一的な大量生産から個性が尊重される時代に変化

1971 マクドナルド第1号店オープン
1974 セブン-イレブン第1号店オープン

1990~

家事が見直される

共働き世帯の増加に伴い、家事の分担に変化

1997 共働き世帯数が半数を上回る

1949

座卓製造販売を開始 クリナップの原点

戦後、生活様式の変化に伴い、複数人で食事を分け合う様式へ。座卓の販売開始から数年で生産量日本一に



1960

ステンレス流し台の 製造販売を開始



1970

当社初の洗面化粧台 「B型」を発売



1973

日本初のシステムキッチンを発表

高度経済成長期を経て、冷蔵庫が一般家庭に普及し、食材の長期保存が可能に。食卓で、新鮮なサラダを手軽に楽しめるようになるなど本格的に欧米化が進む



1983

業界初の簡易型システムキッチン 「クリンレディ」を発売。

リーズナブルな価格帯で普及が進む

肉や乳製品が食卓によく登場するようになり、一般家庭での調理もバリエーションが豊かになり、道具や機器も進化



1985

システムバスルーム「きらら」 ステンレス浴槽のシステムバス ルームを発売

1999~

女性の社会進出による共働き世帯の増加に伴い、家事の省力化ニーズが増え、収納の使い勝手が製品開発の大きなテーマになる

1999

業界初、足元部分を引出し収納にして 収納力アップ、「フロアコンテナ」を開発



1997

システムバスルーム「ラクシーユ」

滑りにくい「フラットフロア」や入浴動作をサポートする「握りバー」など、ユニバーサルデザインを採用



人と暮らしの 未来を拓く

家族と地域と社会が笑顔になる
サステナブルな暮らし方

2000～

健康、安全・安心、多様なライフスタイル

高齢社会に突入、健康や安全、環境、多様性への
関心が高まる

2005 65歳以上が人口の20%を超える

2007 団塊世代の退職が始まる

2020 コロナ禍で新たな
生活様式が広がる

2007

業界初、フィルター自動洗浄機能があり
節水にも貢献する「洗エールレンジ
フード」発売



2007

7 Smiles Cycleをコンセプト
にした「アクリアバス」を発売



2011

レアメタルを削減した
ステンレスキャビネットを発売

レアメタルを約46%削減
(SUS304比)したステンレス材
を採用、分解が容易な構造でリサ
イクル性にも優れています



2018～

高級化・個性化

「CENTRO」「STEDIA」を発売。暮ら
しの真ん中に置きたくなるデザインと革
新を求め続けた素材と機能で、より高
い価値を目指し主力システムキッチン2
シリーズを新ブランドへリニューアル



「CENTRO」クラフトマンシップ、最新の
ステンレス技術を追求



「STEDIA」“わたしキッチン”を実現する



2022～

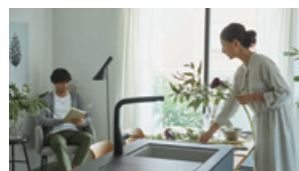
未来キッチンプロジェクト

「キッチンから心豊かな未来を創る。」をコンセプトに、
新しいプロジェクトが始まりました。社会課題解決にも
つながる未来のキッチンを探る産学共同研究、ス
テンレスキッチンのリサイクル、小学生を対象とした未
来のキッチンのイラストコンテストなど、サステナブルな
社会の実現に向けて、新しい一歩を踏み出しています。

2021～

多様化

間取りをフレキシブルに発想する現代のライフスタイル
に合わせたキッチンテーブル「HIROMA」を本格発
売。新型コロナウイルス感染拡大により、リモートワー
クが浸透し、キッチンが仕事場にも。家族のだれもが食
事づくりに参加し、キッチンの多様化が進む



「HIROMA」
作業場の近くに
シンクがあり、
仕事も趣味も楽
しくなる

社長メッセージ

心豊かな暮らしを支える 未来を見据えた企業運営

先人たちがつないできた想いを次世代へと受け継ぎながら
食住空間の新たな可能性を切り拓いてまいります

代表取締役 社長執行役員

竹内 宏



2022年度を振り返って

2022年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に日常化したリモートワークによる巣ごもり需要が追い風となり、当社の主力製品であるシステムキッチン「STEDIA」を中心に堅調に推移し、前年度比9.4%の増収を達成しました。一方で、先行き不透明な社会情勢や世界的な原材料／資材、燃料価格の高騰により、予断を許さない状況が続いています。

コロナ禍に伴う社会的抑制が緩和されて巣ごもり需要がひと段落し、それまで住環境の充実へと向いていた消費者マインドが低下しつつあるのを実感しています。マーケットの変化を機敏に察知しながら、多様な暮らしに寄り添った「暮らし価値」を追求した製品を供給してまいります。

創業の精神へ立ち返った 事業活動の推進

人々の考え方や暮らし方が多様化し、その移り変わりが目まぐるしい時代にあっても、企業理念で掲げる「家族の笑顔を創ります」を実現するために何をすべきかと考えをめぐらせたとき、必ず立ち返っているのは、創業者理念「五心」です。これが「家族の笑顔」を創っていく当社事業の源泉となっています。この1979年に制定した創業の精神には「社員がお互いを信頼し合い、共に歓びをわかちあい、技術や知恵を磨き、社会のための事業を行う会社になる」というサステナビリティに通じる考えが込められています。制定から半世紀近くが経ったいまでも色褪せない企業経営の本質を示唆した指針です。

時の流れとともに会社の規模も大きくなり、創業時のように「五心」を意識する社員は少なくなったかもしれませんが。しかし私には、社員一人ひとりが自分なりに「五心」を受け止めたうえで自らが何をすべきかを考えてもらいたいという思いがあり、「五心」を含むクリナップの理念を記したカードを配布しました。ここに社員が自身で決めた信条や行動指針を書き込むようにしており、自らの言葉とともに「五心」を見返しながら自身を奮い立たせられるツールとなってくれることを期待しています。

「五心」同様に私が大切にしているのが、創業者や現会長の企業経営に関する言葉です。なかでも現・井上強一会長の「工場の改善努力を営業は真剣に受けとめよ」という言葉は、深く心に刻んでいます。営業の現場にいと、ともすれば自分たちが会社を成長させているのだと思いますが、他部署の努力があり全社一丸となってこそその成果なのです。営業の第一線で会社を引っ張ってきた会長であるがゆえに重みのある言葉です。私自身が、常に自分に言い聞かせながら会社を経営し、社員にも折に触れて伝えるようにしています。こうした取り組みの積み重ねにより、創業の精神が社員の意識に根付き、新たな暮らし価値創出の礎となることを信じております。

CSV30実現に向けた取り組みと進捗

当社は10年先のありたい姿を具現化するための指針として、2021年度に長期ビジョン「クリナップ サステナブルビジョン2030」(以下、CSV30)を策定し、実現に向けて歩を進めています。

新たな事業領域への挑戦として2018年に販売ライセンスを取得したイタリアの高級キッチンブランド「Valcucine」については、同ブランドのデザインのもと、当社が製造する「Valcucine JP」の本格展開に向けて着手しています。また、顧客接点の多様化／デジタル化に関しても、かねてから進めてきた商談のオンライン化に加え、ホームページをリニューアルするなど施策を講じています。昨今はWebで購入候補を絞ったうえ

でショールームを訪れるお客様が増加傾向にあり、一新したホームページではキッチンの360°バーチャル体験を可能にし、商品の魅力をより感じていただくことでショールーム訪問につなげるなど、オンラインとオフラインを結び付ける環境を整えています。キッチン選びはいわば一生に一度のイベントです。その大切な選択を提案し、応援できるよう、引き続きDXを推進しながら顧客接点の間口を広げていきます。

人財の活性化では昨年度より3つの非財務目標(女性管理職比率15%、男性育児休業取得率100%、有給休暇取得率60%)を掲げて取り組んでいます。育休と有休はともに取得しやすい社内風土が必須との認識から、業界内の働き方改革の気運の高まりとも同調しつつ、各事業所の支援体制を強化しています。一方で、女性活躍の

クリナップ サステナブルビジョン 2030 (CSV30)

「人と暮らしの未来を拓く」

私たちクリナップは、システムキッチンのパイオニアとして、新たな食住空間の可能性を広げ、創造し、世界中のすべての家族から選ばれ続ける企業となります。

〈重点指針〉

1. キッチンメーカーとして新たな事業領域に挑戦し、安定した収益基盤をつくらせている
2. 顧客接点の多様化、デジタル化に対応し、より身近で選ばれ続ける存在になっている
3. 人財を活性化し、能力を最大限発揮できる職場づくりを実現できている
4. 持続可能な社会の実現に貢献できる会社になっている

2021 中期経営計画の基本方針

クリナップグループの強みを発揮し、「持続的な成長」を実現します

1. 既存事業の収益力向上 2. 事業領域の拡大 3. 成長のための経営基盤強化

戦略1 既存事業の需要開拓、低収益からの転換

水まわり3品(キッチン、浴室、洗面)事業での安定した収益確保を目的に、主に、次の点に取り組む

1. 中高級品の販売力強化、システムバス販売の底上げ、リフォーム需要獲得
2. 水まわり3品事業で培ったノウハウを活かした、サービス、物流分野での外販ビジネスの拡大
3. 生産変革、CPSを核とした原価低減、間接業務の効率化、利益改善

戦略2 新規事業による新たな顧客の創造

中長期的な成長戦略として、新たな顧客の創造を目的に次の点に取り組む

1. 新商材やサービス、新チャネルについての施策を実行計画に展開
2. 海外事業戦略における3つのビジネスモデルを強力で推進

戦略3 ESG／SDGs視点での経営基盤の強化

持続可能な社会の実現に向けて、事業を通じ重要課題(ESG・SDGs課題)の解決に取り組む

進捗は大きな課題と認識しています。2021年度に次世代リーダー育成のための研修として「クリナップビジネスアカデミー」を開講しましたが、自ら手を挙げて参加する女性社員は全参加者の1割にも満たないのが実情です。女性社員が将来のビジョンを描ける会社であり続けられるよう、経営者の責任として職場環境の整備に努めていきます。

気候変動への対応では、2021年度より温室効果ガス排出削減目標を掲げ、再生可能エネルギー導入などの施策を実施しています。今年度は、気候変動を含む当社が取り組むべき3つの環境課題を明示した「クリナップグループ環境ビジョン2050」を策定しました。環境ビジョンの達成に向けて全社をあげて取り組んでいきます。

重点指針のうち、持続可能な社会の実現への貢献は、最も重要なミッションと考えています。いまや会社は業績が良ければよし、という時代ではありません。収益を上げるプロセスやESG、SDGsの取り組みを含めた事業活動全体が企業価値につながります。また、今年度から始動した「未来キッチンプロジェクト」は、そうした社会の期待に応える取り組みのひとつです。食を支え、コミュニケーションを創出し、楽しみを生み出すのがキッチンです。当社はそこから一歩踏み込み、人と社会の豊かな未来を視野に、非常時・災害時に持ち運んで地域互助に寄与するキッチンの開発に産学共同で取り組んでいます。ほかにも、主要素材であるステンレスのリサイクルや環境負荷を抑えた素材の開発に注力するなど、キッチンを起点とした地球環境の保全にも挑んでいます。2022年に創設したサステナビリティ委員会を中心に社会貢献に対する考え方の社内浸透を図りながら、取り組みを加速させていきます。

成長の源泉となるお互いを 尊重しあう風土づくり

持続可能な社会の実現に貢献できる企業であり続けるには、確固たる社内基盤が不可欠であり、特に社内統制を重要視しています。企業では世代が異なる社員が同じ場所で業務を行うため、価値観やコミュニケーションの行き違いから好ましくない結果を招くことがあります。これが原因で会社の原動力である社員の働きがいがあるのは経営上の大きな損失です。会社として防止体制を整備するとともに私自身も積極的に現場へ赴き、方向性を示して働きかけています。誰もが気持ちよく働くことができる社員エンゲージメントの高い企業を目指しています。

さらに昨今、人権問題が取り沙汰されることも多く、当社としても責任を持って取り組まねばならない課題と認識しています。当社はタイの現地メーカーと提携しています。また、岡山工場では今年から外国人の採用を始めました。今後、異なる世代ばかりでなく文化の異なる国の方々と仕事をする機会も増え、お互いの違いを尊重できる社内風土を醸成していかなければなりません。人権は環境対応や社会貢献とともに、労を惜しまず実践していかなければならない企業の責務と認識し、全社一丸となって取り組んでいきます。

クリナップの使命は「家族の笑顔」を創ることで、それは持続可能な社会への実現に向け「社会の笑顔」を創ることに通じます。先人たちがつないできた想いを次の世代に受け継ぎ、全社員で共有し、会社一丸で食住空間の新たな可能性を探っていきます。そして、皆さまの心豊かな暮らしを支えてまいります。



サステナビリティマネジメント

経営とサステナビリティ

企業理念「家族の笑顔を作ります」を事業活動の中で具現化することで、持続可能な社会に貢献しつつ自社の持続的成長を目指すことが、クリナップグループが考えるサステナビリティです。この考えのもと、2023年、「CSR方針」を見直し、新しく「サステナビリティ方針」を策定しました。本方針に基づいた事業活動を推進していきます。

また、クリナップグループとして目指すべき方向性を明確にした長期ビジョン「クリナップ サステナブルビジョン2030」を策定し、その実現に向けて「2021 中期経営計画」に取り組んでいます。

サステナビリティ方針

私たちクリナップグループは、企業理念「家族の笑顔を作ります」のもと、全てのステークホルダーとの対話を重視した事業活動を通じて、持続可能な社会の発展と企業価値の向上を目指します。

1. 「心豊かな食・住文化を創る」という理念のもと、安全で高品質な商品とサービスをもって、お客さまと社会に新たな暮らし価値を提供し続けます。
2. 社会性、文化性をもって積極的に地域社会と関わりを持ち、地域の発展に貢献します。
3. 全ての事業活動においてサプライチェーンと協働で環境課題に取り組み、地球環境との共生を目指します。
4. 各国・地域の法令等を遵守し、人権および多様な価値観を尊重するとともに、サプライチェーン全体での公正で透明な事業活動を推進します。
5. 社員が健康的に安心して働くことができ、多様な人材が活躍できる職場環境や企業風土の実現に取り組みます。

(2023年9月1日)

サステナビリティ推進体制

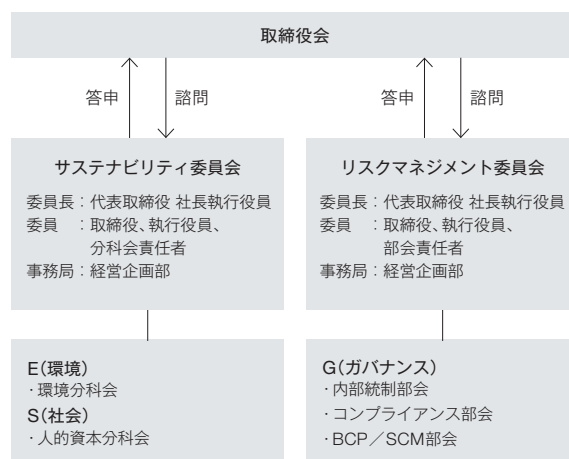
2022年、クリナップグループはサステナビリティに関する議論を集約して実効性を高めるため「CSR委員会」の呼称を変更し、「サステナビリティ委員会」として改編しました。また、企業経営におけるリスクマネジメントを確実に実施していくため「リスクマネジメント委員会」を新設し、両委員会の委員長を代表取締役 社長執行役員としています。

サステナビリティ委員会は、クリナップグループにおける持続可能な社会の実現に向けた活動の方向性や目標設定、重要課題(ESG・SDGs課題)にかかわる活動の進捗状況の管理を行っています。さらに、重要課題のうち、環境と人的資本にかかわる課題に対しては、当委員会の傘下に「環境分科会」「人的資本分科会」を設置し、実行計画の立案、進捗状況の管理を行い、サステナビリティ委員会に報告する体制をとっています。

リスクマネジメント委員会は、対処すべきリスクの発生を事前に把握・管理し対策を講じるとともに、全社で

将来起こり得る損失の発生についての予測・低減・回避に取り組んでいます。当委員会の傘下には「内部統制部会」「コンプライアンス部会」「BCP(事業継続計画)／SCM(サプライチェーンマネジメント)部会」を設置しています。

サステナビリティ推進体制図



重要課題(ESG・SDGs課題)と中期経営計画

クリナップグループは、環境・社会・経済情勢の変化に対応するため、特定した4つの重要課題(ESG・SDGs課題)についてリスクと機会を認識し、リスク低減と機会拡大のための重点取組を推進しています。

重要課題	リスクと機会	重点取組	2021 中期経営計画 施策との関連性
製品・サービス等を通じた暮らし価値の提供 	リスク - 多様化するお客さまのニーズに対する当社製品のミスマッチ - 環境配慮製品の開発の遅れによるお客さまの離反 機会 - ライフスタイルに即した新たな生活空間の創出 - 環境や健康に配慮した製品の市場拡大	- 食と住の文化の交点領域に向け新たな商材やサービス・ソリューションを展開 - 生活者や社会に役立つ価値を提供(健康・省エネ・省資源・節水)	- 既存需要の開拓 - 新規事業による新たな顧客の創造
働きやすい職場づくり 	リスク - 労働生産性の低下や人財獲得の競争激化 - ダイバーシティや人権対応の遅れによる企業イメージの毀損 機会 - 多様な人財活用を通じたイノベーションの創出	- 働きがい、多様な働き方のある職場能力を最大限発揮できる職場 - ダイバーシティ推進による多様な人財活用	「働きがい」ある人事制度の構築
環境保全と環境負荷軽減 	リスク - 気候変動に起因する自然災害増加による原材料価格の高騰 - 高効率な設備導入にともなうコスト増 機会 - 省エネや廃棄物削減 - リサイクル推進によるコスト削減	事業活動におけるCO₂排出削減、環境負荷低減、省エネルギー推進	- ISO14001認証の維持、更新 - 再生可能エネルギーからの電力購入検討
公正で誠実な企業活動 	リスク - 自社およびサプライチェーン上のコンプライアンス違反(環境・人権問題)による信用低下 機会 - 長期的な競争力の向上	- サプライチェーン全体を通じて社会的課題の解決を図る(CSR調達の推進) - 事業を通じての社会貢献推進、地域社会の一員として、ともに発展し続ける	- CSR調達の推進 - 障がい者への就労機会提供 - 介護事業を通じて持続可能な高齢社会の実現に貢献

指標と目標

長期ビジョン「CSV30」の非財務目標として4つのKPIを設定し、具体的な施策に取り組んでいます。

2030年度 非財務目標	環境関連KPI	人財関連KPI		
	2013年度比 温室効果ガス 50% 削減	女性管理職比率 15%	男性育児休業取得率 100%	有給休暇取得率 60%

ステークホルダーとの かわり

クリナップグループは、社会の一員として果たすべき役割と目的意識を明確に持ちさまざまな機会をとらえてコミュニケーションを行っています。事業活動を通して多種多様な期待や要請に誠実に応え、ステークホルダーとの信頼関係と協働関係を築いていきます。

お客さま：ショールーム、カスタマーセンター、愛用者カード、顧客満足度調査、各種展示会、工場見学 など

取引先さま(サプライヤー)：取引先さまとの対話、環境取組アンケート など

株主・投資家：株主総会、決算説明会、IRミーティング など

社員：社員エンゲージメント、職場ミーティング、人事アンケート、社内報、内部通報制度 など

社会：食文化活動、クリ夫のパン屋、社会科工場見学、食文化コミュニティサイト「Dreamia Club(ドリーミアクラブ)」運営、社会貢献活動(地域イベント協賛、清掃活動、献血など)、CSR専門家との意見交換会 など

製品・サービスなどを通じた暮らし価値の提供



背景にある社会課題

- ・超高齢社会における安全で健康的な生活の実現
- ・資源の持続可能な消費を実現する製品開発の推進
- ・快適な生活のさらなる質(QOL)の向上

基本的な考え方

社会の多様なライフスタイルの変化に合わせ、安全への配慮はもとより、省エネ、省資源などの環境配慮を通して、健康で快適な暮らしに貢献する製品やサービスを提供します。

2021 中期経営計画施策との関連性

- ・既存需要の開拓
- ・新規事業による新たな顧客の創造



クリナップの暮らし価値とものづくり

座卓という家族の団らんを象徴する製品から始まったクリナップは、お客さまの声に耳を傾け、キッチンを中心に食住空間の提案をする住宅設備機器メーカーとして「暮らし価値」を創造していくことを自らの役割と捉えています。また、お客さまの感動や驚きは、お客さま自身も気がついていない困りごとを探り出し、解決策を具現化させるところに生まれるという考えのもと、「クリナップらしさ」にこだわった製品開発を進めています。

2022年3月には、「SDGs視点の製品・サービス指針」を策定し、持続可能な社会の実現に貢献する「暮らし価値」提供を推進しています。さらなる未来を見据えた取り組みとして、多様な社会課題をバックキャストリングで解決を図るべく、産学共同の「未来キッチンラボ」を創設し、研究と実証実験に取り組んでいます。



木目の温かさとセラミックの機能性を両立させたキッチン

SDGs視点の製品・サービス指針

クリナップセーフティ

～安全で清潔、健康的な暮らし～

1. 全ての人にとって安全な住空間を提供します。
2. 清潔で健康的な暮らしに貢献する製品を提供します。
3. 安全な暮らしを支える技術を向上します。

クリナップライフサイクル

～持続可能な環境保全～

1. 製品のライフサイクルで環境汚染を防止します。
2. 地球資源を有効に活用します。
3. 省エネや節水などによってCO₂排出を削減します。

クリナップコンフォート

～人とつながる心地よい暮らし～

1. 全ての人にとって心地よい住空間を提供します。
2. 生活スタイルの変化に対応する製品とサービスを提供します。
3. 人とのつながりを醸成する製品とサービスを提供します。

TOPIC

産学共同研究「未来キッチンラボ」

当社は2030年をゴールとして長期ビジョン(CSV30)で「人と暮らしの未来を拓く」を掲げています。では2030年に「人と暮らしの未来を拓く」を叶えるシステムキッチンとは何か。このテーマに取り組むため2019年から武蔵野美術大学との共同研究を始め、2023年には「未来キッチンラボ」として活動を本格的にスタートさせました。

キッチンの未来ビジョンを描く

当社と武蔵野美術大学山崎和彦研究室との共同研究が始まったきっかけは、社会課題をキッチンで解決するにあたり、現在だけでなく未来を見据えた商品開発の指針(ビジョン)が必要なのではないかという社内議論からです。

武蔵野美術大学のソーシャルクリエイティブ研究所 特別研究員 山崎和彦氏は工業デザイナーでもあり、かつて当社で商品のデザイン業務に携わっていました。現在は企業とともに事業や製品開発の将来あるべきビジョンを作ることに取り組まれています。当社も山崎氏の手を借りながら2019年に研究所の学生たちとワークショップを行い、現在から2030年のキッチンのあるべき姿を具現化した「キッチンの未来ビジョン2020」(下)を作成しました。

「脱LDK」で地域の課題を解決するキッチン

当社は企業理念として「家族の笑顔を作ります」を掲げています。ここで言う笑顔は「家族の一員である個人の笑顔」「家族の笑顔」そして家族の集合体である「社会の笑顔」です。キッチンが核となり食が人と社会をつなげ、家庭や地域コミュニティに楽しみや寛ぎをもたらすことが、「笑顔」をつくることである。この考えに基づいてプロジェクトを進めています。

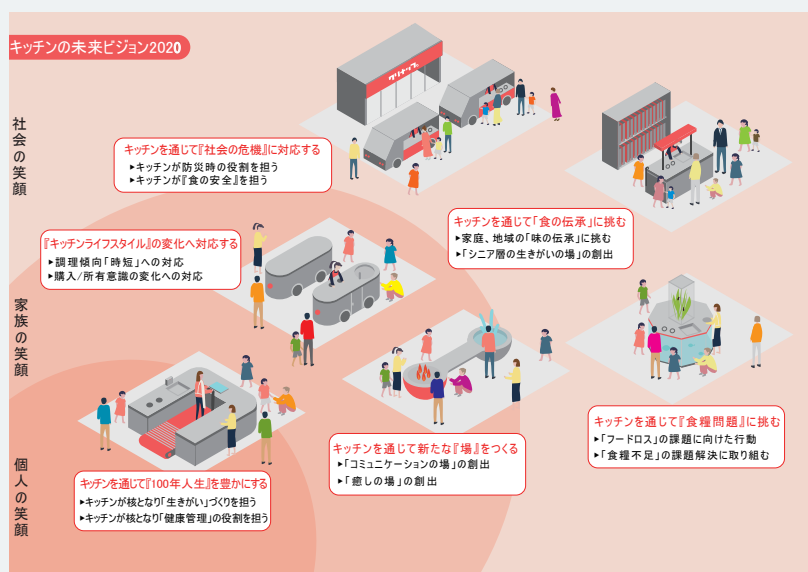
まず家を飛び出して地域コミュニティで機能する「脱LDK」のキッチンという新しい考え方を導入し、これを実現化した「移動可能なキッチン」を試作しました。クルマに積めるシンクユニットとフィルターメーカーの協力を得て開発した循環ろ過装置を備えることで移動を可能にしました。日常は地域社会においてコミュニケーションの場をつくり、非常時には災害時の避難所などでも使えるキッチンです。

デモンストレーションで実用化に向けた課題を検証

試作にとどまらずイベントでデモンストレーションを行っています。

2022年11月に千葉県館山市で開催された食を通じた街作りのイベントに出展し、山崎研究室の学生さんとともに調理を行いました。循環ろ過装置による廃水の再利用や、車からの電源供給方法など自治体の方々とも検証して、実用化に向けた課題を整理しています。

この試みでキッチンが多くの社会課題の解決に貢献ができるという方向性が見えてきました。今後も毎年、「未来キッチンラボ」の活動としてキッチンの未来ビジョンを見直しつつ、そのときどきの商品開発につなげていきます。



防災拠点としても使えるキッチンのほか、シニアの生きがいの場をつくりながら食の伝統を次世代につなぐ、フードロスや食糧不足を考えるとというテーマや役割が設定されています。

みんなが楽しい、地球にやさしい

未来キッチン イラストコンテスト

未来のキッチンを子どもたちにイラストで自由に表現してもらったコンテストを開催します。審査員長は「未来キッチンラボ」の山崎氏。最優秀賞受賞作品は立体的な模型を作成し受賞者に授与するとともに、本社やショールーム、イベントなどで展示されます。

P. 40
未来キッチンイラストコンテスト

素材へのこだわり

クリナップは、中高級システムキッチンの素材としてワークトップやシンクに加え、キャビネットにもステンレスを採用しています。ステンレスは、耐久性や清掃性などのキッチンとしての実用性に優れるだけでなく、リサイクルも容易であることから環境保全にも貢献します。

ステンレスの特長

- 特長1：サビにくく、熱や薬品にも強い
- 特長2：お手入れ簡単。末永く使える耐久性
- 特長3：有害なホルムアルデヒドが発生しない
- 特長4：リサイクル率が80%以上



ステンレスキャビネット

■リサイクルを考慮した分解しやすい構造

ステンレス製のキャビネットは、廃棄後のステンレス材としてリサイクルを容易にするため、レールなどの部品を簡単に取り外せるように、可能な限りネジを使わない構造にしています。



技術へのこだわり

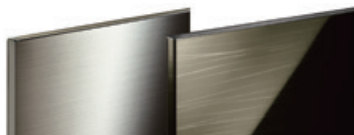
リサイクルが容易でキッチンにとって理想的な素材であるステンレスをさまざまな部材に採用するため、クリナップは独自の技術を持っています。

■ステンレスの加飾技術

ステンレスの高度な表面処理加工技術により、高い意匠性と耐久性を実現しました。キッチンのワークトップや扉などに採用しています。



美コートワークトップ
バイブレーションダーク



ステンレス扉

■熟練工の技術 クラフツマンシップ

品質とデザイン性に優れたステンレス製品には熟練工のクラフツマンシップを活かしています。細やかな手作り作業や長年の経験と上質へのこだわりが、クリナップの高級システムキッチンに活かされています。



システムキッチン「CENTRO」のクラフツマンデッキシンク

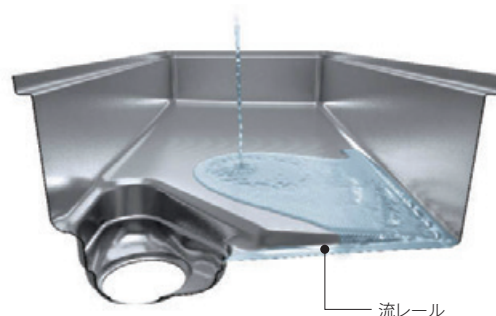
清潔・健康に配慮した製品開発

暮らしのなかで関心の高い清潔・健康に配慮した製品開発を進めることで、清潔で健康的な暮らしに貢献します。

清潔を保つ流レールシンクと美コート

さまざまな食品を取り扱うキッチンシンクは、食中毒などのリスクを低減するため、常に清潔さが求められます。「流レールシンク」は、調理中の野菜洗いや、後片付け時の食器洗いの水の力でシンク内のゴミが「流レール」に集められ、排水口に向けて流れていくシンクです。調理中からシンクをキレイに保つことができます。

また、ステンレスのワークトップ、シンクに採用されている親水性コーティング(美コート)は、油污れなどの落ちにくい汚れも落としやすくして、キッチンを清潔に保ちます。



流レール

温度差の解消により健康を守るHotウォール

浴室における事故の大きな要因に、ヒートショックがあげられます。室内空間の急激な温度変化による血圧の急変動で起こる「ヒートショック」は、特に冬場に増加する傾向にあります。パネル型壁付け暖房機「Hotウォール」は、居室と脱衣所・浴室の急激な温度差を解消することができる商品です。18mmにまで厚みを抑えたスリムな外観と、ふく射熱による安全性により、狭い場所でも安心して使えるものです。



さらに、クリナップは、入浴前の洗面室から、入浴中の浴室、そして入浴後の洗面室まで、温かな空間を保つ製品を提供しています。

入浴前

Hotウォール

朝晩2回のタイマー予約でいつもの時間に自動でスイッチオン



床夏シャワー

浴室を足元から温める



入浴中

浴室まるごと保温

浴室全体を保温材で包み込み温かさをキープ



入浴後

Hotウォール

お風呂上がりの寒さをやわらげる



環境に配慮した製品開発

製品のライフサイクルや地球資源に配慮した製品開発を進めることで、地球環境と共生する持続可能な暮らしに貢献します。

水資源に配慮した洗エールレンジフード

世界的な人口増加や気候変動などにより、2050年には50億人分の水の確保が困難になるおそれがある^{*1}といわれています。クリナップは、キッチンや浴槽など水とかわりの深い製品を扱っており、限りある水資源の利用効率改善に取り組んでいます。

「洗エールレンジフード」は、レンジフードのフィルター油汚れを自動洗浄で約9割^{*2}落とすことができます。手洗いをした場合は、大量の水を使用しますが、自動洗浄では手洗いの1.2%以下の水使用量に抑えることができます。

使用水量の比較

一般的なフィルター 洗エールレンジフード

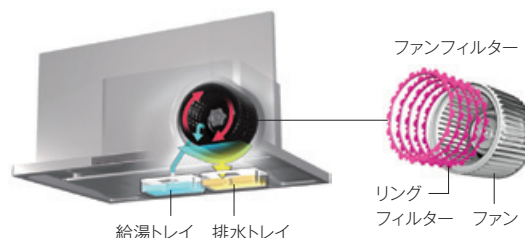
約28L×2回 > 約0.65L

2カ月で
約55L
節水^{*3}

^{*1} 世界気候機関 (WMO) による試算

^{*2} 当社試験条件による

^{*3} 当社検証比(月に一度手洗いをした場合と2カ月に一度洗エールレンジフードの自動洗浄を行った場合の実験データ)



洗エールレンジフード

<https://cleanup.jp/online-showroom/centro/rangehood/araeru/>

製品アセスメント

製品の環境負荷軽減を目的に、開発工程において製品アセスメントを運用しており、製品の減量化や化学物質の使用削減、省エネ法の遵守状況などについて確認しています。

品質保証

基本的な考え方

クリナップグループは創業期から品質にこだわり、お客さまの安全と健康を第一に考え、感動していただける製品・サービスの提供に努めています。製品に限らず、営業や物流、取付・設置やアフターサービスなどサプライチェーン全体でお客さまに満足いただけるようトータル品質の向上にも力を入れています。

ISO9001(品質)への取り組み

クリナップは、1996年にキッチンメーカーで初めて品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」の認証を取得しました。物流関係会社のクリナップロジスティクス株式会社および取付・設置、アフターサービスを担う関係会社クリナップテクノサービス株式会社も認証を取得しています。

品質方針

私たちクリナップグループは、企業理念『家族の笑顔を作ります』およびCSV30(クリナップサステナブルビジョン2030)のもと、品質・環境マネジメントシステムを推進し、持続可能な社会を実現します。

1. お客さまの安全を第一に考え、高品質で快適な暮らしに貢献する製品・サービスを提供します。
2. お客さまの声を積極的に品質に反映して、お客さま満足度の向上に努めます。
3. 法令、規制要求事項を遵守します。

(2023年4月1日)

製品安全を確保するための行動指針

お客さまが安全・安心に使える製品と取付・設置を提供するため、「クリナップグループ製品安全自主行動指針」に則り製品安全の確保に取り組んでいます。安全に関する法令や安全基準の遵守はもとより、製品開発・設計、製造、検査、原材料の調達、取付・設置および修理、事故発生時の苦情受付、製品回収の対応について社内規程を定めています。

 クリナップグループ 製品安全自主行動指針
https://cleanup.jp/policy/privacy_indicate.shtml

重大製品事故発生時の対応

重大製品事故が発生した場合には、お客さまの安全確保を最優先とし、必要な場合には製品回収などの処置を実施します。また、社内の品質保証体制に則り、製品事故などの情報を関係部署へフィードバックし、製品の改良、警告ラベル、取扱説明書の改訂、ならびに取付・設置および修理方法の見直しを行うことにより、継続的に製品事故などの再発防止に努めます。

お客さまサポート

クリナップグループが提供する製品・サービスは、長期間にわたり使用される特性上、お客さまが購入された後におけるサポートの体制やチャネルの充実に注力しています。

20年サポートプログラム「スマイル20」

お客さまの「飲み」「笑顔」を実現するためのお手伝いをさせていただくというクリナップにおけるアフターサービスの基本的な考え方に基づき、快適な使い勝手や機能を長期にわたり維持する20年サポートプログラム「スマイル20」を用意しています。このプログラムでは商品の機能・性能を維持するためのメンテナンス情報の提供と併せて必要なサポート体制を整えています。



延長保証制度「クリナップスマイル会員」

延長保証制度「クリナップスマイル会員」は、スマイル20の通常サポートに加えて、さらに充実したサービスをご提供する有料サポートプログラムです。単なる延長修理保証だけでなく定期点検も含めたプランなど、お客さまに合わせた3つのプランをご用意、安心、快適なスマイルライフをサポートします。また、「クリナップスマイル会員」の皆さまには、暮らしや食にまつわる有益な情報をお届けする生活情報誌「365c.」を定期的に無料でお届けしています。



生活情報誌「365c.」

「クリナップスマイル会員」3つのプラン

プランの種類	種類
LIGHT ライトプラン	延長修理保証のみのプラン。 本体10年／機器6年のほか計3コースあります。
SELECT セレクトプラン	延長修理保証と定期点検サービスのご希望コースが選べます。
STANDARD スタンダードプラン	5年間の延長修理保証と5年ごとの定期点検サービスの固定プランです。

kitchen trip (キッチントリップ)

kitchen trip(キッチントリップ)は、キッチンを使い始めの1年間、お客さまに寄り添いながら、「キッチンを楽しむ学ぶ」をコンセプトとした使い始めをサポートする公式LINEサービスです。

使い方やお手入れ方法など、使い始めの疑問にお答えするコンテンツや使用開始日や商品シリーズに合った情報のお届けのほか、お客さまが参加できる投稿企画やイベントなどを定期的で開催するなど、使い始めのサポートが充実しています。



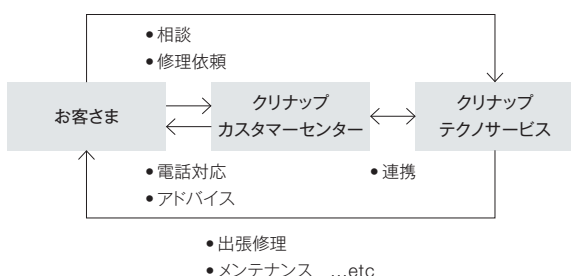
kitchen trip



クリナップのお客さま総合窓口とアフターサービス体制

クリナップグループのアフターサービスは、お客さま総合窓口のカスタマーセンターと取付・設置及びアフターサービスを担当し、全国7カ所にテクノセンターを有するクリナップテクノサービスとの連携で、質の高い充実したアフターサービスを提供しています。

また、お客さま総合窓口であるカスタマーセンターには、毎年数十万件の情報が寄せられます。このような「お客さまの声」を大事にしながら分析を行い、製品・サービスの企画に反映し、お客さま満足度の向上に努めています。



お客さまとのコミュニケーション

クリナップが初のショールームを1970年に東京・飯田橋に開設して以来、半世紀の時が経過しましたが、お客さまとの接点であるショールームを重視する姿勢は一貫しています。

クリナップはショールームを「暮らし方情報発信拠点」と位置づけており、商品や食に関する情報に精通したショールームアドバイザーがお客さまの暮らしの課題・問題に日々お応えし、快適な暮らしを叶える商品をご提案します。現在、ショールームは日本全国に102カ所(2023年4月1日時点)となっています。

旗艦ショールーム「キッチンタウン」

日本全国のショールームのうち、東京・横浜・名古屋・大阪の4カ所を旗艦ショールーム「キッチンタウン」として展開しています。

キッチンタウンでは、システムキッチンやシステムバスルーム、洗面化粧台の展示に加え、食・住に関する情報の定期的な発信や、最新の商品ラインアップとライフスタイルの提案を通じ、お客さまの暮らし方をサポートしています。

2021年3月、自宅で商品を体感できる「オンラインショールーム」を開設し、来館せずに「オンライン相談」でのプラン提案を可能にしました。



キッチンタウン・東京

オンライン接点のさらなる充実

オンライン上でのメインプラットフォームとなる公式ホームページを継続的に強化しています。2023年2月に大規模なリニューアルを実施して、キッチン購入の初期検討時に参考となる記事コンテンツ「いつかキッチンを選ぶ日に」を公開しました。

SNSでは「Instagramクリナップ公式アカウント」を積極的に運営しています。当社公式アカウントが開催している画像投稿キャンペーンを通じて当社ユーザーさま同士の交流や、検討を始めたばかりの方々との情報交換が生まれています。今後もお客さまと双方向でコミュニケーションができる重要な接点として注力していきます。

働きやすい 職場づくり



背景にある社会課題

- 人々の多様性に寛容な社会とジェンダー平等の実現
- 誰もが働きがいを感じ、人の個性を活かせる社会の形成

基本的な考え方

多様な人材を活かし、能力が最大限発揮できる機会を提供することでイノベーションを生み出し、価値創造につなげることを目的として、健康的で多様な働き方を可能にする労働環境の整備を推進します。

2030年度までのKPI

- 女性管理職比率 15% →P.21
- 男性育児休業取得率 100% →P.20
- 有給休暇取得率 60% →P.20

2021 中期経営計画施策との関連性

- 「働きがい」ある人事制度の構築



働きやすい職場づくりに 向けたクリナップの考え方

お客さまのみならず、社員の家族の笑顔も創っていきたい、クリナップグループはその想いを、行動理念「私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります」に込めています。サステナブルな考えを軸に「社員が健康的に安心して働くことができ、多様な人材が活躍できる職場環境や企業風土の実現」を掲げ、多様な社員が心身ともに健康で充実した生活を送り、それぞれが能力を十分発揮できるような職場環境の整備に取り組んでいます。

推進体制

クリナップの人的資本に対する全社的な方向性や施策を検討する会議体として、人事部門長を責任者とする「人的資本分科会」を2022年4月に設置しました。本分科会で議論した施策などをサステナビリティ委員会に報告していきます。全社員を対象にしたエンゲージメントサーベイの調査結果などをもとに課題を人的資本分科会で検討し、改善する体制を整えています。

ワークライフバランス

社員が心身ともに充実した生活を過ごせるように取り組むことで、仕事へのモチベーションと生産性の向上を目指します。

これまでのワークライフバランス推進の取り組み

	取り組み内容
2015年	・働き方変革会議設置 ・働きがいと働きやすさ視点による人事制度見直し
2018年	・営業職にモバイルワーク導入
2019年	・リフレッシュ休暇制度導入
2020年	・ボランティア休暇制度導入
2021年	・フレックス勤務制度導入(本社のみ)
2022年	・男性社員の育児休業取得推進
2023年	・有給取得促進の取り組み

次世代法行動計画(2021～2025年度)

次世代育成支援対策推進法(次世代法)に則り、行動計画では、より働きやすい職場環境の構築を通じて多様な働き方の支援を図っています。

人事データ

			単位	2020年度	2021年度	2022年度
社員数*1	単体	男性	名	1,991	1,988	1,960
		女性	名	905	953	966
		合計	名	2,896	2,941	2,926
	連結	男性	名	2,387	2,361	2,333
		女性	名	1,067	1,108	1,123
		合計	名	3,454	3,469	3,456
女性社員比率	単体	%	31.3	32.4	33.0	
	連結	%	30.9	31.9	32.5	
平均年齢	単体	歳	40.1	41.0	41.1	
	連結	歳	41.0	41.0	41.0	
平均勤続年数	単体	年	16.0	16.0	16.0	
	連結	年	15.0	15.0	15.0	
離職率*2	単体	%	3.8	4.2	6.0	
	連結	%	—	—	—	

*1 社員数は就業人員で記載しています。

*2 離職率は正社員・契約社員の自己都合退職者を対象としています。

■ 育児休業取得推進と介護中の働き方支援

産休前面談の強化により、育児休業に対する理解促進を通じて育児休業取得を推進しています。特に男性社員の育児休業の取得率は2030年目標100%取得を掲げ、社内報での取得事例の紹介や、出産予定のある社員には上司も含めた面談の中で希望日数に応じた休暇方法の提案など、積極的に取り組んでいます。加えて、介護休暇・介護時短勤務など、介護と両立しながら働ける制度も整備しています。

育児休業取得率・取得者数／介護休業取得者数

			単位	2020年度	2021年度	2022年度
育児休業	単体	男性	% (名)	22.7(10)	29.8(14)	52.2(24)
		女性	% (名)	100(58)	100(62)	100(47)
	合計	男性	% (名)	66.7(68)	69.7(76)	76.3(71)
		女性	% (名)	—	—	—
介護休業	単体	男性	名	0	0	0
		女性	名	0	0	3
	合計	男性	名	0	0	3
		女性	名	—	—	—

■ 休暇制度の導入と利用の促進

クリナップグループは社員とその家族のより充実した生活のために、さまざまな休暇制度を導入しています。有給休暇取得率は2030年目標として60%取得を設定しており、十分な相互コミュニケーション、業務スケジュールの見える化など、休暇を取得しやすい職場環境を整える取り組みを推進しています。その成果として、2022年度は61.3%の取得率となり目標を達成しました。

有給休暇取得率の推移

		単位	2020年度	2021年度	2022年度
取得率	単体	%	53.2	56.7	61.3

ワークライフバランスを実現する休暇制度

休暇の種類	内容
リフレッシュ休暇	心身のリフレッシュを目的に勤続の節目の年(5,10,20,30年)に2～5日の休暇が取得可能
アニバーサリー休暇	本人および家族に関する記念日において、1日の休暇取得が可能
マイバースデー休暇	本人の誕生月内において、1日の休暇取得が可能
ファミリーバースデー休暇	家族の誕生月内において、1日の休暇取得が可能
ボランティア休暇	自然災害への社会貢献活動など、ボランティア活動に参加することを目的に最大5日の休暇取得が可能

夫婦二人三脚で育児する経験は、復帰後の暮らしの充実につながります

妻の妊娠がわかったときは、コロナ禍による行動制限と親族に頼ることができない状況でしたので妻といろいろ相談しました。このとき男性にも育児休業制度があることを知ったのですが、前例が少ない上に係長という立場を考えると、はじめは育児休業取得に戸惑いがありました。しかし、当時の上司が取得を勧めてくれたことと、同じ部署のメンバーも好意的に受けて止めてくれたことで安心して育児休業を取ることができました。

休業に入り自宅での育児が始まると初めての経験に戸惑うことばかりでしたが、夫婦で悩みながらクリアしていくことで、夫婦二人三脚での子育ての楽しさが芽生えました。復帰後は私がお風呂と寝かしつけを担当し、育児が子どもと触れ合える楽しい時間となっています。

以前は帰宅後にも仕事のことを考えることがありましたが、育児休業取得後では、家族への想いが強くなり気持ちの切り替えが上手くできています。仕事の面でもお風呂の時間までに帰宅する目標ができたことで、効率的に仕事を終わらせる習慣が身につきました。今後はどの部門でも気兼ねなく、育児休業・介護休業を取得できる風土になることを期待しています。



2006年入社
静岡営業所
石山 健太郎

Voice

時間外労働削減の取り組み

モバイルワーク導入やパソコンのシャットダウン時間を早めるなど、働き方変革に取り組み、効率的な業務遂行を推進しています。

一人あたりの時間外労働時間の推移

	単位	2020年度	2021年度	2022年度
年間総労働時間	単体 時間	2,119.9	2,154.6	2,165.5
平均時間外労働時間	単体 時間	18.1	21.0	21.9

社員の健康増進の取り組み

社員の健康増進は会社の責務であるとの認識から、以下の健康方針を掲げ取り組んでいます。

健康方針

〈基本理念〉

クリナップの健全な企業活動とは、社員の身体的・精神的・社会的健康と不可分な関係と認識し、社員が健康で業務に専念する為の健康確保・健康保持増進活動を推進します。

1. 労働関係諸法令を遵守します。
2. 定期健康診断の受診を義務づけ、社員の意識向上を図ります。
3. ストレスチェック制度を通じて、個人および組織全体の心の健康保持増進に努めます。
4. 社員の労働時間の管理を徹底し、適切な指導・管理を行います。
5. 家族の笑顔デーを推進し、長時間労働の削減を図ります。
6. 振替休日・代休の取得を推進し、休日を確保します。
7. 良好なコミュニケーションの実現のため、職場間コミュニケーションの機会を創出します。
8. 産業医面談およびメンタルヘルスに関する面談を適宜実施します。
9. 身体的・精神的・社会的に健康であることの重要性を周知し、社員の意識向上を図ります。
10. 以上を通じて、「健康を確保した働き方(働き方変革)」を実現します。

ダイバーシティ＆インクルージョン

女性活躍推進

クリナップのダイバーシティへの取り組みは、女性視点を経営／ビジネスに取り入れることを目指すことから始まりました。女性に限らず多様な価値観を受容することで、経営面でも多様な意見や発想が広がっていくことが期待できます。女性管理職比率は、2015年度末には1.7%でしたが、2023年4月現在で3.1%（9名）となりました。社員一人ひとりが能力を最大限に発揮でき社員の成長が会社の成長につながることを目指し、報酬総額の男女間の格差低減に取り組むなど、さらなる推進をしていきます。また、女性総合職の採用にも力を入れており、女性総合職は2023年4月時点で123名です。

女性活躍推進の状況

	単位	2021年 4月	2022年 4月	2023年 4月	目標
女性管理職数	単体 名	9	8	9	—
女性管理職比率	単体 %	3.2	2.8	3.1	15
社員一人あたりの報酬総額の男女比*	単体 —	—	—	1.61	—

*報酬総額の男女比:女性を1とした場合の男性の報酬金額比率
対象範囲：正規雇用労働者、パート・有期労働者
(注)クリナップは、同じ役割・職種において男女同一賃金ですが、勤続年数が長い場合は給与が高くなる傾向にあり、男性の勤続年数が長いことや、給与の高い職種の男性比率が高いことなどによって報酬総額の男女差が発生したと考えています。

女性のキャリア形成支援と両立支援

クリナップの女性社員は全体の約1/3(2023年3月時点)で、その約半数が全国のショールームアドバイザーとして活躍しています。そのためショールームでのリーダー役の養成と仕事への意欲を高める施策が重要と考え、取り組んできました。その結果、女性のショールーム所長が誕生し、多くのリーダーが育っています。全国に4カ所ある「キッチンタウン」と呼ぶ旗艦ショールームの所長はすべて女性です。本社の企画部門でも5名の女性が管理職として活躍しています。

また、結婚や出産での離職者は減少し、キャリア継続を選択する女性社員が増えています。一度離職しても復職可能な「カムバック制度」があり、積み上げてきたキャリアを継続していけるよう支援しています。

■ 高齢者雇用

50歳以上を対象とする「ネクストステージプラン制度」を設け、50歳時に今後のキャリアをどのように構

築していくかを考える「キャリアプランセミナー」と、56歳時に定年前後の情報提供を行う「ライフプランセミナー」(マネープランの設計や社会保険の基礎知識など)を実施しています。そして59歳時には「定年退職ガイダンス」で、60歳定年時の選択肢について、定年後再雇用制度と社外への再就職支援サービスの説明を行っています。

■ 障がい者雇用

障がいのある社員が社会的に「自律」し、地域社会と「共生」できる会社を目指し、2008年に特例子会社クリナップハートフル株式会社を設立しました。障がいのある社員はグループ内の施設管理や、データ入力、発送作業、パン製造・販売などの業務に従事しています。生産工場においても、柔軟な勤務時間への対応、定期的な面談を設けるなど、働きやすい体制を整備し、障がい者雇用に取り組んでいます。



人事業務センターでの業務風景

障がい者雇用者数／雇用率の推移

	単位	2020年度	2021年度	2022年度
障がい者雇用者数	連結 名	56	52	59
障がい者雇用率	連結 %	2.36	2.17	2.45

(注) 一部の子会社を除く

■ 多様な社員の雇用に向けた取り組み

多様な経験を持つ人材が活躍できる職場を目指して、中途採用を積極的に進めるほか、外国人採用も継続して行っています。

雇用の種類	内容
中途雇用	・ 業界経験者、建築など各種専門能力保有者の雇用に注力 ・ 業界未経験者も誠実かつ前向きに取り組む人材を中心に積極的に雇用
外国籍雇用	多様な社員の活躍推進として、外国籍労働者の雇用を継続する

採用者数の推移

	単位	2020年度	2021年度	2022年度
新卒採用人数	単体 名	106	143	81
中途採用人数	単体 名	31	47	92
外国籍人数	連結 名	0	1	0

健全者と障がいのある社員が 生き生きと活躍できる 職場づくり



Our Mission (私たちの使命)

障がいのある社員が社会的に「自律」し、健全者と障がいのある社員が「共生」することで、心のこもった価値を「創造」する職場を目指します。

Our Action (私たちの活動)

人事業務センターでは、クリナップグループ社員の人事関連業務やマイナンバー管理、社員証の製作などを、健全者1名と障がいのある4名の社員が各自の責任とやりがいをもって行っています。メンバーには、不便なことはないか、困っていることはないか、など常に声掛けをするように心がけています。お互いに協力し成長し続けることができ、障がいの有無にかかわらず、さまざまな制限のある方が活躍できる職場環境づくりを目標としています。



クリナップハートフル株式会社
人事業務センター
主任
河野 友紀子

Voice

人材育成

クリナップは、経営理念の実現に資する人材の育成を心がけています。また、社員の自立的な能力開発とキャリア形成を推進しており、自己啓発支援と資格取得支援を行っています。

人材育成基本理念

企業目標に貢献する組織と個人の目標を持ち、各自がより高みを目指し、組織の枠を超えてチーム力を促進させる人材を育成します。

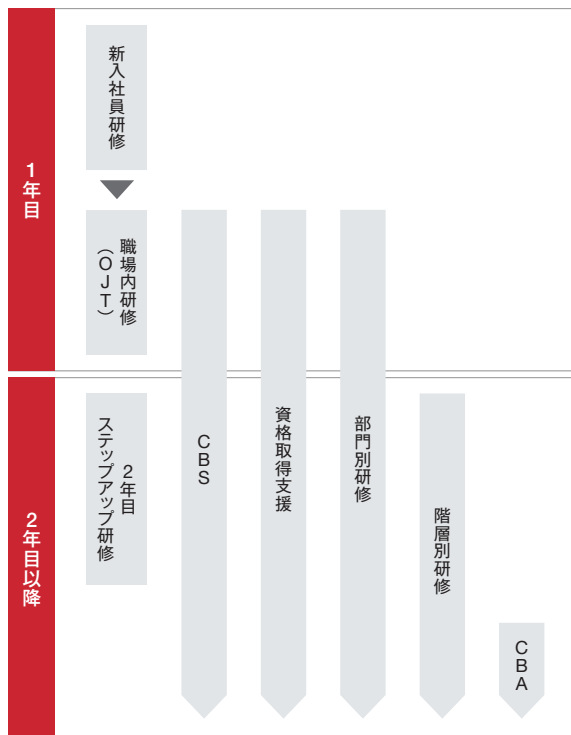


人材育成基本方針
https://cleanup.jp/policy/hr_development.shtml

全社教育

当社では人材育成・評価の仕組みとして、スキルマップを設定しています。等級ごとに求める基準を視える化し、適正な人事評価につなげています。

教育・研修の流れ



● 成長支援制度

■ クリナップビジネススクール(CBS)

自己啓発支援として、通信教育とeラーニングの受講が可能です。階層別、スキルマップ必修、部門別・推奨コースがあり、職務に必要な講座を選択します。定められた期間内に受講した講座を修了すると奨学金が支給されます。

■ 公的資格取得支援

社員の自己啓発支援(幅広いスキルや専門知識・技能の取得)が目的です。会社で定める公的資格(キッチンスペシャリストや建築士、販売士など)を取得した社員にはお祝い金が支給されます。

● 選抜・選任型

■ 次世代リーダー育成プログラム(CBA)

クリナップの10年後を切り拓いていく次世代リーダー育成のために、2021年に開講しました。6カ月のプログラムを経て、経営層にプレゼンする機会を設けているのが特徴です。バイタリティある40歳前後のリーダー層に教育機会を自ら選び取ってもらい、視座を高め視野

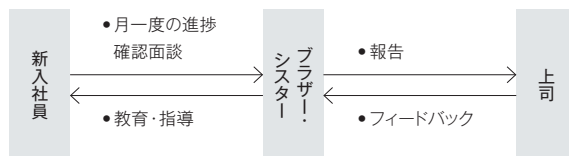
を広める中長期的な育成を目指します。徐々にその成果が現れており、育成プログラムを修了した社員が中心となって新プロジェクトをスタートさせました。このプログラムによって、自ら声を出し会社を動かしていく風土に変化してきています。女性の参加者もあり、今後の成果に期待しています。



受講生のプレゼンに耳を傾ける竹内社長をはじめとする経営陣

■ ブラザー・シスター制度

新入社員が配属後、スムーズに職場環境に慣れ、仕事に関するスキルを習得することを目的とした制度です。先輩社員がブラザー・シスターとして指導にあたり、仕事のみならず、日常生活の困りごとの相談相手としてフォローします。



● 階層別研修

■ 新入社員研修

入社後の約2週間の研修で、社会人としての基本スキル、会社や業界の概要と歴史、商品知識などを習得します。入社・赴任から約1年後にはステップアップ研修(工場見学研修含む)、2年後にはジャンプアップ研修を実施、入社時から現在までを振り返り、現状の課題を整理した後、今後のアクションプランを各自で設定します。

● 部門別研修

各部門で必要な専門知識を深める目的で商品研修、営業研修、マナー研修、開発研修、生産技術研修などを実施します。

労働安全衛生

クリナップ工場グループ安全衛生方針

〈基本理念〉

クリナップは、当社で働く全ての人が安全で健康的な働きやすい職場環境を確保するよう、安全衛生活動を推進します。



クリナップ工場グループ安全衛生方針 (全文)
https://cleanup.jp/policy/occupational_safety.shtml

労働安全衛生マネジメントシステム

クリナップグループ内工場を対象とする労働安全衛生マネジメントシステム(以下、OSHMS)は、生産本部長を最高責任者として、労働安全衛生活動の主体である各工場の工場長をOSHMS管理責任者とする体制で運用しています。

各工場では年間の安全衛生計画を策定し、社員に周知するとともに産業医や安全衛生委員会と協力して、職場の安全衛生推進を実施しています。また、生産本部長を委員長として、各部門長と労働組合を含めた中央安全衛生委員会を1カ月に1度開催し、安全衛生に関する問題や職場環境の改善・健康に関するテーマについて協議しています。

安全衛生に関する取り組み

■ 機械設備の安全対策

クリナップグループの各工場では、作業・機械設備・化学物質に対してリスクアセスメントを実施し、リスクの定期的な見直しを行っています。また、法令などの安全基準に準じた安全装置を設置するだけでなく、フェイルセーフ*1とフルプルーフ*2の観点で当社独自の安全機能を機械設備に導入しています。これにより、機械設備の本質安全化が図られています。

*1 製品やシステムに故障が発生しても安全が維持できるような工夫

*2 人間が誤った行為をしようとしてもできないようにする工夫

■ 安全衛生教育

クリナップグループの工場では、社員が安全で健康的に働けるよう、労働災害や職業性疾病を未然に防止するため、年間を通して15講座の安全衛生教育を継続的に実施しています。

1. KYT教育

(危険を予知して、労災事故の未然防止を図る)

2. 危険体感教育

(機械設備のはさまれ、巻きこまれ等を疑似体験する)

3. 普通救命講習 I

(心肺蘇生の手順やAEDの使い方を習得する)

4. 安全衛生特別教育(粉じん作業、アーク溶接、他)

5. 安全衛生能力向上教育(フォークリフト運転、他)

6. 管理監督者向け安全衛生教育(TWI-JS、他)

クリナップグループの全工場においては、全社員が安全衛生活動に参加、危険意識高揚と安全衛生意識の深化が図れる取り組みを継続し、労働災害ゼロを目指しています。

エルゴノミクス活動

クリナップグループの工場では、人間の身体的、生理的、精神的特性に、仕事、製品、システム、環境を調和させ、人間の健康、福祉、安全を向上させることを目的としたエルゴノミクス活動を推進しています。

保安防災(環境汚染の予防対策)

■ 緊急事態への対応

クリナップは危険物類、化学物質類、廃棄物保管などの取り扱い、燃焼・汚水処理施設の運転や操作方法のミスによる環境汚染を予防するため、定期的に「緊急事態対応訓練」と称して実際の道具を使用した訓練を行っています。

今後も、施設や設備の点検を定期的に行い、事故の発生を未然に防止しながら、緊急事態発生に備えた対応訓練を継続していきます。

■ 想定した緊急事態

- ・ボイラー、危険物類からの火災
- ・危険物、化学物質の漏えい、地下浸透
- ・廃棄物(木くず、樹脂、金属の削り粉)の飛散



消火訓練



避難訓練

環境保全と 環境負荷軽減



背景にある社会課題

- ・気候変動による社会的影響の最小化
- ・再生可能エネルギーの使用促進
- ・資源の持続可能な消費や生産、開発の推進

基本的な考え方

すべての事業活動において地球環境との共生を図るとともに、温室効果ガス削減や廃棄物削減等の環境負荷軽減を推進します。

2030年度までのKPI

- ・2013年度比温室効果ガス50%削減 → P.29

2021 中期経営計画施策との関連性

- ・ISO14001認証の維持、更新
- ・再生可能エネルギーからの電力購入検討

環境マネジメント

2023年、気候変動などの環境課題に対応するため、「クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)」を策定しました。クリナップグループ内に浸透させるとともに、環境活動をより一層、推進していきます。

クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)

「人と暮らしの未来を拓く」

クリナップグループは、2050年までに、カーボンニュートラルの達成と資源循環および水資源の有効利用に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

気候変動への対応

2050年 カーボンニュートラル(Scope 1,2において)

資源循環の推進

- ・製品の3R推進
- ・持続可能な材料の使用

水資源の有効利用

- ・製品の水使用量削減
- ・事業活動における水使用量の削減

SBTイニシアチブ(Science Based Targets initiative)への申請

気候変動への対応を推進するため、パリ協定に整合した温室効果ガス(GHG)削減目標をSBTイニシアチブへ申請しています。申請した目標は、クリナップグループの事業活動による排出量(Scope 1^{*1},2^{*2})削減とサプライチェーン排出量(Scope 3^{*3})削減の2軸で設定しており、2023年度にSBT認定を取得する計画です。

*1 Scope1: 燃料の使用や焼却設備での燃焼によって自社が直接排出する温室効果ガスの量。

*2 Scope2: 電気、熱、蒸気の購入によって間接的に排出される温室効果ガスの量。

*3 Scope3: 製品の原材料調達から製造、販売、廃棄に至るまでの過程において間接的に排出される温室効果ガスの量(サプライチェーン排出量)

環境担当役員インタビュー

地球環境の保全と共生に向けて

新たに策定したビジョンを指針に
全社一体で
環境課題の解決に挑みます執行役員 CS推進部担当
中里 敦

社員一丸となり環境施策を進めるための指針

—「クリナップグループ環境ビジョン2050」策定の経緯をお聞かせください。

当社は長期ビジョン「クリナップサステナブルビジョン2030」において、温室効果ガスの削減を掲げています。これにより持続可能な社会の実現に貢献するため、環境の保全と負荷軽減に注力することを表明しました。これをさらに推し進めるため環境分科会を中心に議論を重ね、具体的な環境目標を設定した「クリナップグループ環境ビジョン2050」の発表に至りました。このビジョンで目指すゴールや方向性を社内外に明示することで、当社社員が全社共通の課題と認識し、ステークホルダーの皆さまのご協力を仰ぎながら環境課題解決に取り組んでまいりたいと考えております。

ビジョンの実現に向けて挑む三本柱

— 環境施策の具体的な取り組み内容と進捗状況を教えてください。

環境ビジョンで取り組むべき三本柱として、気候変動への対応、資源循環の推進、水資源の有効利用を掲げています。

気候変動は市民生活のみならず当社の事業活動にも多大な影響を及ぼします。頻発する豪雨などにより取引先の工場が浸水、あるいは交通が寸断されれば、資材調達や製品製造・供給が滞りかねません。そうしたリスクを鑑みても軽視できない問題であり、2050年までのカーボンニュートラルを最終目標に、2030年の中間目標を定めてScope 1,2、Scope 3の2軸で温室効果ガス排出量削減に取り組んでいます。Scope 1,2では、一部工場で太陽光発電を導入するなど再生可能エネルギーへの転換を順次進めていきます。

また、自社での営業車のハイブリッド自動車へのシフト、輸送トラックの積載率向上に取り組んでいます。Scope 3では、製品の省エネ化、軽量化など、取引先さまと連携した取り組みを進めていきます。また、お客さまには、環境配慮製品の啓発活動を通して環境保全へのご理解をいただけるよう取り組んでいます。

次に資源循環の推進についてですが、当社の製品には木材、樹脂、金属など、さまざまな資源が使われており、持続可能な資源利用の観点には欠かせません。当社のステンレスキャビネットには、枯渇が懸念されるレアメタルの含有量を抑えた新ステンレス材を使用しているほか、再利用しやすい簡易分解構造を採用するなど、リサイクルの促進に取り組んでいます。さらにキッチンを回収・リサイクルするプロジェクトもスタートさせました。

水資源に関しては、水回り製品がお客さまの手に渡った後の水を使うシーンでの環境配慮に力点を置き、それに沿った商品展開に努めています。例えば「洗エールレンジフード」は、ボタン1つでフィルターとファンを自動洗浄でき、一般的な手洗いと比べて大幅に水使用を削減できます。環境に優しいというえに手軽に洗えて常に清潔を保ち、高所作業が不安なご年配の方の作業負担軽減、事故防止にも効果があり、こういった点でも社会に貢献できる商品ととらえています。

社員の意識向上とお客さまへの啓発活動

— 目標達成に不可欠と思われるポイントは何でしょうか。

社員とお客さまの環境意識の向上です。当社が掲げる環境目標達成のためには、社員への環境意識のより一層の向上が不可欠と考えています。全社員が方向性を共有し意識が高まることで、環境活動が活発化していけると考えています。

一方で、近年はお客さまの環境に対する意識は高く、省エネをはじめ環境に配慮した商品の需要が増していることを実感しています。2021年よりアフターサービスの一環として、効率的な商品使用やキッチン収納術、料理などのアドバイスを登録者に配信する「kitchen trip(キッチントリップ)」という試みを実施しており、そこで家庭でできる節電や節水などの情報を積極的に発信すれば、お客さまのご理解もさらに深まるはずです。お客さまと一緒に取り組むことで、環境課題の解決にもう一歩近づけると確信しています。その帰結として企業理念に掲げる「家族の笑顔」を創っていく所存です。

ISO14001 (環境) のマネジメントシステム

クリナップは、環境マネジメントシステムを構築、運用しています。環境方針を制定し、全社員に浸透させるとともに、各部署が方針に基づいた環境活動を推進しています。全ての生産工場においてISO14001の認証を取得しています。

環境方針

私たちクリナップグループは、企業理念「家族の笑顔を創ります」およびCSV30(クリナップサステナブルビジョン2030)のもと、品質・環境マネジメントシステムを推進し、持続可能な社会を実現します。

1. 事業活動における温室効果ガス削減および廃棄物削減などの環境負荷軽減を推進します。
2. 省エネ、省資源など環境に配慮した製品・サービスを提供します。
3. 環境法令などを遵守し、汚染の予防を図り、環境保全を行います。

(2023年4月1日)

環境教育

環境保全活動の推進に向け、専門性や階層に応じて、人材の育成を行っています。2022年度は以下のカリキュラムを実施しました。

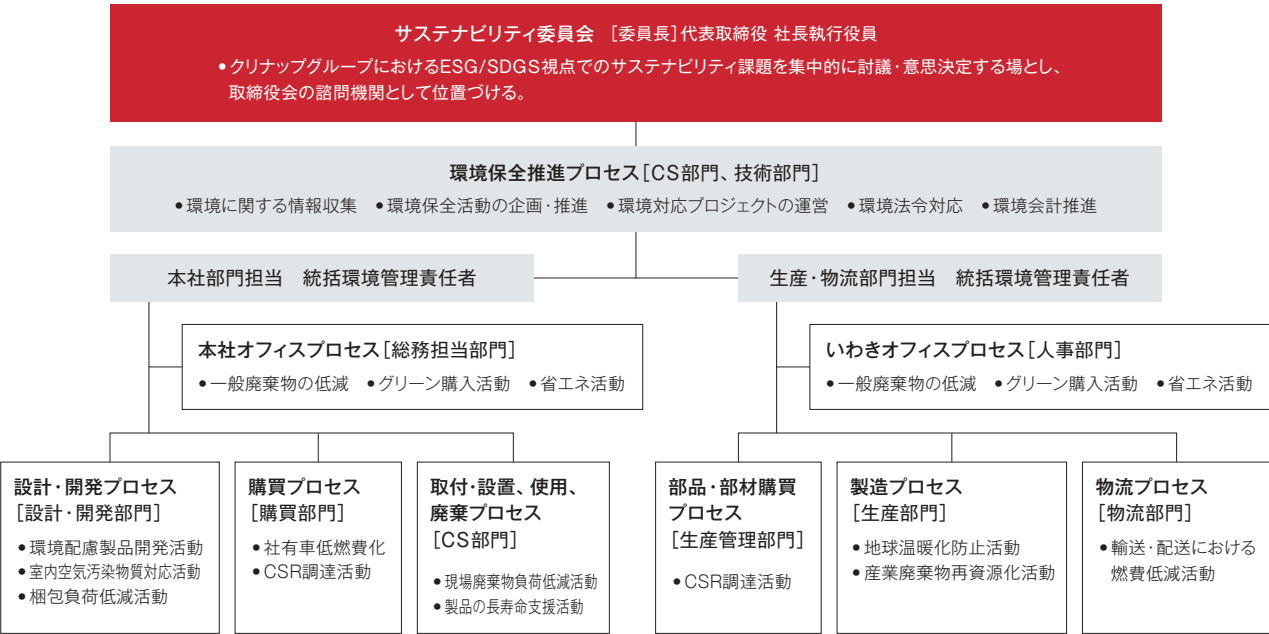
教育テーマ	単位	対象者	受講者数
内部環境監査員教育	名	新任管理者および新任担当者	14
新任ライン長係長研修	名	新任ライン長および新任係長	14
新入社員教育(いわき)	名	新入社員	15
新入社員教育(本社)	名	新入社員	97
新入社員教育(岡山)	名	新入社員	10



内部環境監査員教育

環境保全活動推進体制

クリナップの環境保全活動を含むサステナビリティに対する全社的な意思決定を行うために、「サステナビリティ委員会」を設置しました。環境に対する議題は、「クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)」の検討、環境保全活動の方向性や目標設定、「2021 中期経営計画」に取り上げた環境保全活動の進捗状況のほか、さまざまな議題を報告・審議しています。



環境課題とマテリアリティ

事業活動に伴う環境課題

環境におけるクリナップの事業活動に伴う課題は3つの要件から導き出されます。

第一の要件はマテリアリティです。マテリアリティとは、事業活動に伴って、投入された資源の量と、活動によって排出された物質やCO₂の量の収支です。マテリアリティを知ることにより、事業活動の環境負荷を把握できます。

第二の要件は環境関連法令です。工業製品の製造は多くの法令によって規制されており、これら法令の遵守は必達事項です。

第三の要件はステークホルダーから求められている課題です。この3要件から導き出されるのが、以下の5つの環境課題です。

1. 気候変動への対応	省エネ・エネルギー効率化、再生可能エネルギー導入など	P. 29～31
2. 資源循環の推進	廃棄物削減、製品梱包の環境負荷軽減など	P. 31～33
3. 水資源の有効利用	事業活動での水使用量	P. 33
4. 製品の環境配慮対策	環境に配慮した製品開発(水資源に配慮した洗エールレンジフード)	P. 16
5. 化学物質対策	環境負荷の軽減(化学物質に対する取り組み)	P. 33

マテリアリティ

クリナップの開発から出荷までの事業活動に伴う資源投入および排出物の状況は以下の通りです。

ライフサイクルプロセス

IN

購買プロセス		2021年度	2022年度	単位
エネルギー	電気	21,880	22,269	千kWh
	(うち再生可能エネルギー)	0	8,847	千kWh
	A重油	237	299	kℓ
	軽油	1,097	1,031	kℓ
	灯油	38	40	kℓ
	ガソリン	11	14	kℓ
	LPG	352	348	千m ³
水資源	太陽光発電	0	202	千kWh
	上水	82	74	千m ³
原材料資材	工業用水	243	248	千m ³
	木材	41,810	45,820	t
	樹脂	23,731	23,063	t
	金属	12,879	13,535	t
	製品梱包用ダンボール	3,199	3,326	t
PRTR指定化学物質		1,060	1,050	t

オフィス活動

本社・いわき部門オフィスプロセス		2021年度	2022年度	単位
エネルギー	電気	2,581	1,766	千kWh
	(うち再生可能エネルギー)	0	578	千kWh
	軽油	3	4	kℓ
	灯油	5	7	kℓ
	ガソリン	17	19	kℓ
水資源	LPG	5	5	千m ³
	上水	12	12	千m ³
コピー用紙		2,109	2,418	千枚

(対象範囲：クリナップ株式会社(本社および生産部門)、株式会社クリナップステンレス加工センター、クリナップロジスティクス株式会社)

2022年度のCO₂排出量は、再生可能エネルギーの導入による効果が大きく、前年度より製造プロセスで25.8%削減、物流プロセスで8.6%削減、本社・いわき部門オフィスプロセスで48.9%削減することができました。2022年度の産業廃棄物の排出量は、内作生産台数6.0%増加に伴い、産業廃棄物総量も前年度比6.8%増加となりました。

ライフサイクルプロセス

OUT

製造プロセス		2021年度	2022年度	単位
CO ₂ 排出量*		13.4	9.9	千t-CO ₂
排出物	産業廃棄物排出量	8,335	8,905	t
	金属有価物排出量	1,199	1,127	t
	一般廃棄物排出量	36	40	t
部品梱包用ダンボール		566	614	t
排水量		323	321	千m ³
室内空気汚染物質		24	22	t
(うちPRTR指定化学物質)		15	16	t

物流プロセス

	2021年度	2022年度	単位
製品出荷重量	71,158	74,879	t
CO ₂ 排出量*	3.1	2.8	千t-CO ₂
排水量	2	2	千m ³

取付・設置・使用・廃棄プロセス

	2021年度	2022年度	単位
製品梱包材重量	3,199	3,326	t

オフィス活動

本社・いわき部門オフィスプロセス		2021年度	2022年度	単位
CO ₂ 排出量*		1.3	0.7	千t-CO ₂
一般廃棄物排出量		10	11	t
書類		35	38	t
排水量		12	12	千m ³

*電気のCO₂排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

気候変動への取り組み

気候変動に対するマネジメント

■ ガバナンス

気候変動をサステナブル経営の重要課題の一つととらえ、代表取締役 社長執行役員を委員長とするサステナビリティ委員会にて経営にかかわる対応を審議した上で、取締役会に報告する体制を整備しています。

気候変動を含む環境保全に関する全社的な対応は同委員会の下部組織である環境分科会で審議され、サステナビリティ委員会に報告されます。

■ 戦略

気候変動が及ぼすリスク・機会を、事業戦略の重要な要素と位置づけ、2021年、長期ビジョン「CSV30」において温室効果ガス削減目標を掲げました。目標達成に向けた施策については、「2021 中期経営計画」の事業戦略・計画として策定し、温室効果ガス排出削減に向けた取り組みを推進しています。

■ リスク管理

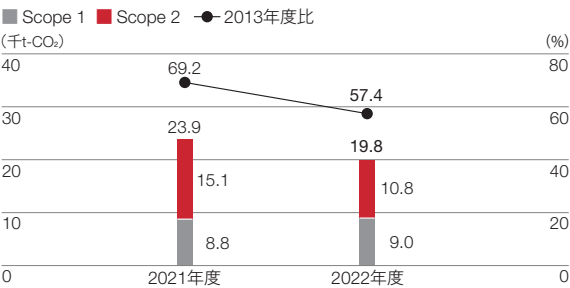
代表取締役 社長執行役員を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置し、リスクの特定とともに継続的な管理強化を推進しています。特に自然災害に起因する物理的リスクへの対応に関しては、同委員会の下部組織としてBCP／SCM部会を設置し、事業継続について議論を行っています。

■ 指標と目標

2023年、「クリナップグループ環境ビジョン2050 (CEV50)」において、2050年度カーボンニュートラル (Scope 1,2) を設定しました。また、指標については、Scope 3を2021年度分から算定しています。

2050年度
Scope 1,2 カーボンニュートラル
2030年度
Scope 1,2 50%削減(2013年度比)

温室効果ガスの排出量の推移



クリナップグループの2022年度CO₂排出量 (Scope 1,2合計) は、再生可能エネルギー導入や省エネ活動などにより前年度比17.1%削減となりました。この結果、2013年度比では57.4%まで減少しています。Scope 3については、製品販売数の増加などにより前年度比4.0%増加となりました。

温室効果ガスの排出量 (千t-CO₂)

スコープ	概要	排出量	
		2021年度	2022年度
Scope 1	直接排出	8.8	9.0
Scope 2	電気・熱・蒸気の購入による間接排出	15.1	10.8
Scope 1,2合計		23.9	19.8
Scope 3	Scope1,2以外の間接排出	1,319.3	1,371.5
カテゴリ1	購入した製品・サービス	313.1	346.3
カテゴリ2	資本財	14.9	12.3
カテゴリ3	エネルギー関連活動	3.9	3.4
カテゴリ4	輸送、配送(上流)	6.3	6.1
カテゴリ5	廃棄物	2.3	2.3
カテゴリ6	出張	0.5	0.5
カテゴリ7	従業員の通勤	1.3	1.1
カテゴリ8	リース資産(上流)	算定対象外	算定対象外
カテゴリ9	輸送、配送(下流)	1.5	1.5
カテゴリ10	販売した製品の加工	算定対象外	算定対象外
カテゴリ11	販売した製品の使用	961.6	983.5
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	13.7	14.4
カテゴリ13	リース資産(下流)	0.1	0.1
カテゴリ14	フランチャイズ	算定対象外	算定対象外
カテゴリ15	投資	算定対象外	算定対象外
総排出量		1,343.2	1,391.3

対象範囲：クリナップグループ(P.42 企業データを参照ください)
2021年度のScope 2について対象範囲を見直しました。

生産部門における省エネ・エネルギー効率化に向けた取り組み

生産部門で使用している主なエネルギーは、電気・A重油・LPGです。A重油・LPGについては、CO₂排出の少ないLNGへの切り替えを開始予定です。また、エネルギー使用量の多い電気を削減するため、2022年度はLED照明の導入や省エネパトロールなどによる省エネ活動を行いました。

■ LNG (液化天然ガス) への燃料切り替え

クリナップは自社工場のボイラーなどで使用しているA重油とLPGについて、2023年度から、LNGへの切り替えを開始する予定です。



クレート工場 (2023年度LNG導入予定)

LPGはプロパン、ブタンを主成分とするのに対して、LNGはメタンを主成分としているため、燃焼時のCO₂排出を削減する効果が期待できます。このため、将来的に自社工場へLNG導入を拡大していく計画です。



鹿島システム工場
(2024年度LNG導入予定)



鹿島工場
(2025年度LNG導入予定)

さらに、2050年度、カーボンニュートラルを目指していくために、LNGからメタネーション(水素とCO₂を化学反応させ、メタンを合成する技術)によって作られた合成メタンへ切り替えていくことも視野に入れています。

■ LED照明

野田工場および鹿島工場にLED照明を導入しました。これにより2022年度は年間約3.8 t-CO₂削減しました。



野田工場のLED照明

■ 省エネパトロール

省エネパトロールは、各工場の製造ラインを定期的に巡回し、エアリークや不必要な照明の点灯状況、設備のフィルターの汚れなどをチェックし、改善を促す活動です。2022年度は12回実施し、年間約12.5 t-CO₂削減の効果が 있었습니다。



省エネパトロールでのエアリークチェック

太陽光発電と再生可能エネルギーの導入

2022年4月、いわき地区の生産部門と関係会社において購入電力の50%を再生可能エネルギー由来のものに切り替えました。これにより、年間4,740 t-CO₂削減の効果が ありました。

また、同年5月、クリナップの湯本工場に太陽光パネルを設置し、自家消費型の太陽光発電を運用しています。2022年度は約202千kWh発電を行い、年間で約98.5 t-CO₂削減の効果が ありました。

クリナップは今後も太陽光パネルの設置を拡大していく予定です。



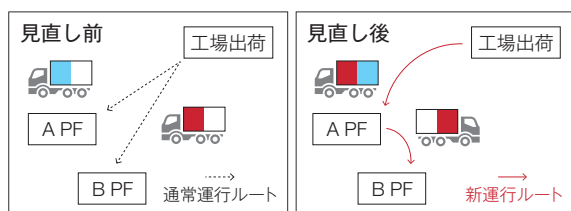
湯本工場の太陽光発電

物流部門における省エネ・エネルギー効率化に向けた取り組み

工場から出荷される製品は、配送先別(PF^{*1})に仕分けを行いトラックに積載しています。製品の荷量は日々変化するので、平均出荷量や積載効率^{*2}などから、効率の悪い輸送ルートの見直しを図っています。

■ 積載効率が悪い車両(車両削減)

積載効率が悪くても2つの配送先に2車で輸送していた運行を、2つの配送先に1車でまとめて輸送することによって、車両とCO₂排出量を削減することができま。車両削減による2022年度のCO₂排出量削減効果は、約133.5t-CO₂の削減でした。



■ A PF搭載スペース ■ B PF搭載スペース

*1 PF(プラットフォーム): 荷物の積み降ろしをする配送の土台となる場所

*2 積載効率: 許容積載量に対して実際に積載する貨物の割合のこと

■ エコドライブの推進

クリナップロジスティクス株式会社では、社員へのエコドライブ教育のほか、輸送協力会社のエコドライブ意識の向上に力を入れています。運転技術や意識により、同じ走行距離であってもCO₂の排出量を削減できる取り組みで、安全管理や事故防止などの副次的効果もあることから輸送協力会社とともに推進しています。

営業車にハイブリッド自動車を導入開始

クリナップは、2023年5月より営業用社用車にハイブリッド自動車の導入を開始しました。導入から5年後の2027年度末までに全営業用社用車の約70%を、ガソリン車からハイブリッド自動車に入れ替える計画です。



営業所に導入されたハイブリッド自動車

クリナップグループでは、2050年カーボンニュートラルを目指しており、営業車に求められる航続距離、社外充電スポット利用における待機時間などの実用性を確認した上で、電気自動車の導入も進めていきます。

資源循環の推進

廃棄物削減の取り組み

クリナップの生産部門ではゼロ-エミッション^{*1}に向けて取り組んでいます。製造プロセスで発生する産業廃棄物は89%が木くず、7%が廃プラスチック類、残りの4%はその他が占めています。

2022年度の再資源化率はその他の廃棄物^{*2}の埋立量増加により97%となりました。

*1 ゼロ-エミッションとは、環境負荷を軽減するために廃棄物(emission)を再資源率99%以上にするとしています。

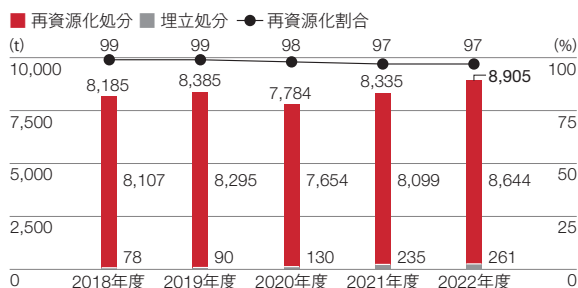
*2 その他の廃棄物とは、ガラス・陶磁器くず、金属混合物、廃油、汚泥などです。

(注)各処分量は、マニフェストより算出しています。

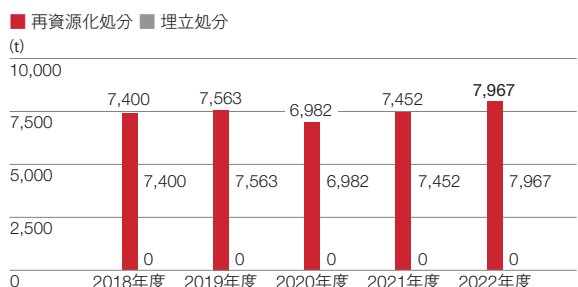
■ 再資源化の課題

2022年度の廃棄物の総排出量は、内作生産台数が前年度比6.0%増加したことに伴い、570トン増の8,905トンとなりました。埋立量は前年度比26トン増加しており、これは廃油および汚泥が再資源化できなくなったことが要因です。再資源化できなくなった廃棄物の対応が今後の課題です。

廃棄物総排出量と再資源化割合

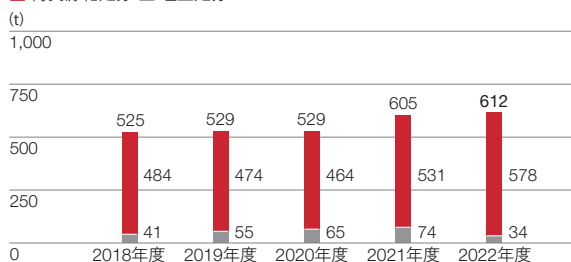


木くずの再資源化処理推移



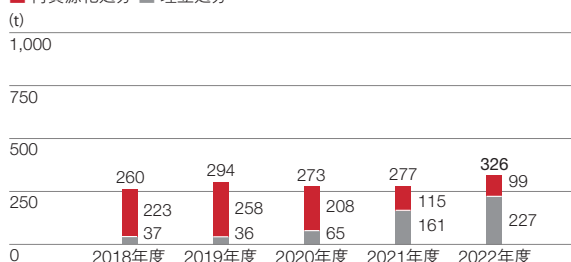
廃プラスチック再資源化処理推移

■ 再資源化処分 ■ 埋立処分



その他の廃棄物の再資源化処理推移

■ 再資源化処分 ■ 埋立処分



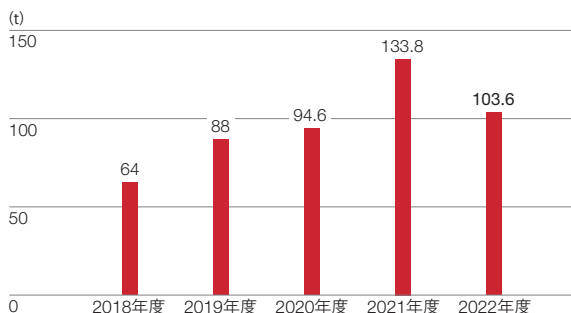
製品梱包の負荷低減

■ 省資源への取り組み「リターナブル梱包」

システムキッチンのワークトップ梱包によく使われるのは使い捨てのダンボールです。

取付・設置現場での廃棄物対策として、製品納入後に回収し、繰り返し使えるように設計されたリターナブル梱包を積極的に使い、ダンボール梱包削減に取り組んでいます。リターナブル梱包を定期的に購入し、リターナブル梱包での出荷率向上を行っています。また、リターナブル梱包を電子管理することで未回収を防ぎ、円滑な運用を行っています。

「リターナブル梱包」によるダンボール梱包削減量推移

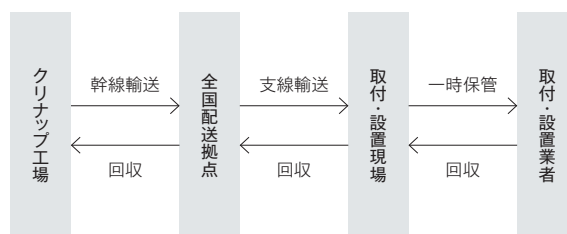


出荷時のリターナブル梱包



回収時のリターナブル梱包は清掃して再出荷

「リターナブル梱包」回収の仕組み



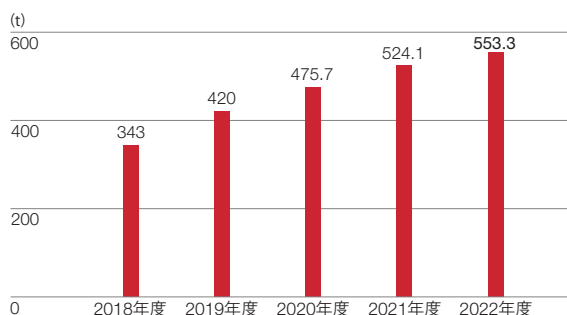
■ 省資源への取り組み「シュリンク梱包」

キッチン壁パネルを透明フィルムで覆い、シュリンク梱包機に通して加熱するとフィルムが縮んで製品を密封加工します。引き続きシュリンク梱包を活用しダンボール梱包を削減する活動を行っていきます。



キッチン壁パネルのシュリンク梱包

「シュリンク梱包」によるダンボール梱包削減量推移



キッチンキャビリサイクルプログラムの運用開始

クリナップでは、「未来キッチンプロジェクト」の一環として、リサイクル率の高いステンレスキャビネットキッチンへの買い替え支援プログラム「キッチンキャビリサイクルプログラム」を2023年4月から開始しました。

当プログラムは、当社の会員制リフォームネットワーク「水まわり工房」の加盟店（リフォームショップ、工務店、販売店など）を通じて、キッチンのリフォーム時に廃棄される旧キッチンの回収とリサイクル事業者への引き渡しを促進します。

クリナップは、加盟店との協働によって、地域のリフォーム活性化と地球環境の保護に努めていきます。



キッチンキャビリサイクルプログラムのイメージ

お客さまとの協働によるリサイクル推進



Our Mission（私たちの使命）

廃棄されるステンレスキャビネットキッチンをリサイクル事業者へ引き渡されるよう勧めることで資源循環を推進していきます。

Our Action（私たちの活動）

私たちは、リフォーム時に廃棄される旧キッチンのリサイクルしていただくため、または、将来のリサイクルにつなげていただくため、当社の「ステンレスキャビネット」をご採用いただいたお客さまには、ステンレスキッチンツールなどの特典を提供します。この活動で、水まわり工房加盟店さまのリフォーム提案に、「エコ・リサイクル」のキーワードが加わることを目指しています。当社製品の販売促進と共に、ステンレスリサイクルによる環境負荷軽減に貢献していきます。



営業本部
SR・営業推進部
水まわり工房推進課
課長
岩田 浩典

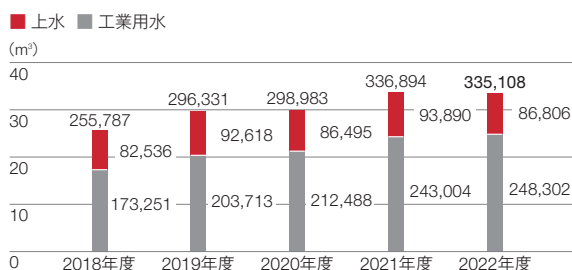
Voice

水資源の有効利用

事業活動における水使用量の削減

クリナップでは、上水と工業用水を合わせた取水量が2022年度は335千m³となり、生産台数が6%増加したものの、取水量は0.5%削減しました。

水使用量の推移

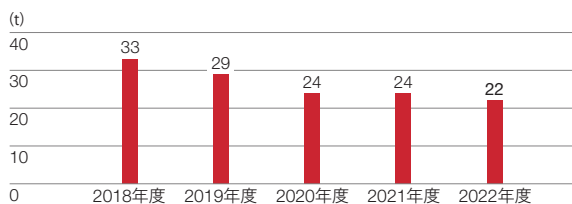


環境負荷の軽減

化学物質に対する取り組み

シックハウスの原因になる室内空気汚染物質は、トルエン、キシレン、スチレン、ホルムアルデヒド、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、エチルベンゼンなどです。クリナップの製造プロセスでは、2022年度は22トンとなり、年々減少傾向となっています。今後もグループ全体で代替物質への転換、対象物質の使用量削減に取り組んでいきます。

室内空気汚染物質取扱量の推移



■ 取扱量削減への課題

接着剤に含有されている溶剤や樹脂の可塑剤が主な削減の対象となりますが、一部、より安全性の高い水系エマルジョンタイプへの切り替えを行っており、さらに品質・機能・価格の条件を満たした代替品への切り替えを加速させていきます。

■ 周辺環境への配慮

製造工場の周辺環境へ環境負荷の高い有害物質が排出されないよう、関連法令に基づき有害物質などの適切な管理、処理を行っています。2022年度、環境関連の法令への違反はありません。

公正で誠実な企業活動



背景にある社会課題

- ステークホルダーの期待に応え、社会に貢献する企業であることへの責任

基本的な考え方

持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図り、企業としての社会的責任を果たすとともに、クリナップグループを取り巻くさまざまなステークホルダーとの信頼関係構築を目指します。

2021 中期経営計画施策との関連性

- CSR調達の推進
- 障がい者への就労機会提供
- 介護事業を通じて持続可能な高齢社会の実現に貢献

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

1. 株主の権利を尊重し、株主の実質的な平等性の確保に努める。
2. ステークホルダーとの適切な協働を図る。
3. 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
4. 取締役会による業務執行機能を実効化する。
5. 株主との間で建設的な対話を行う。

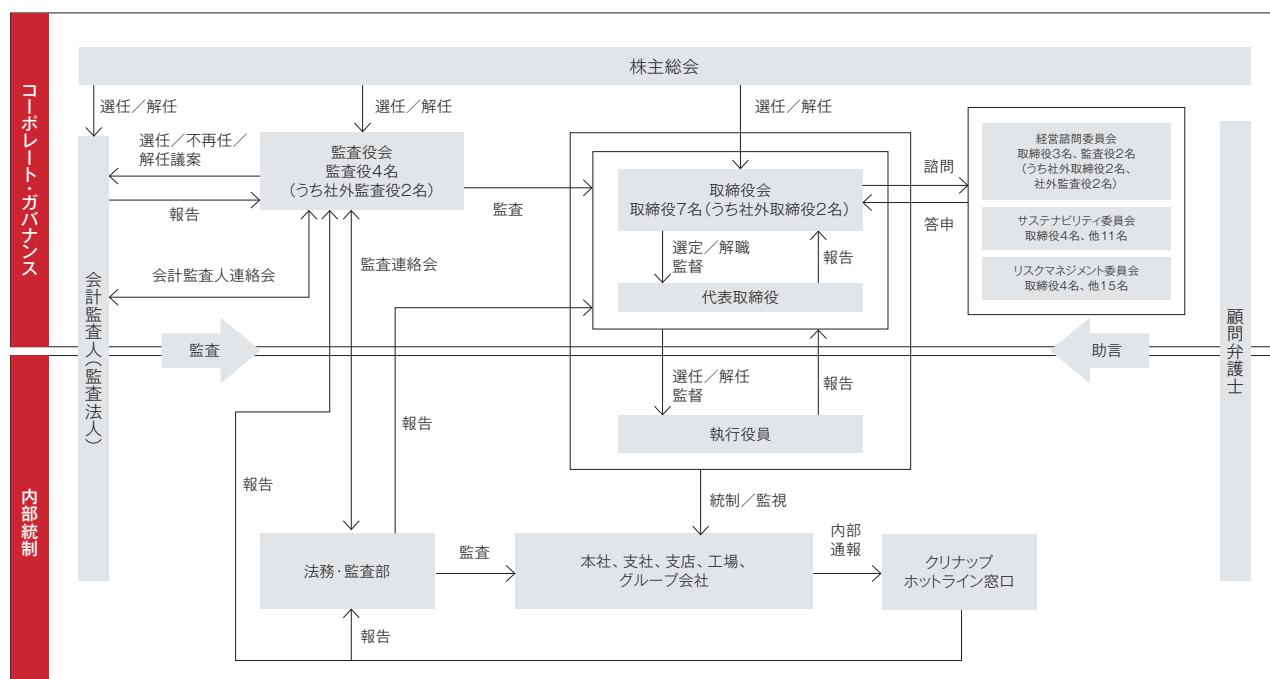
コーポレート・ガバナンスの体制

当社は取締役会、監査役会、経営諮問委員会を設置するほか、執行役員制度を導入して業務執行機能を分離し、迅速な業務執行および的確な意思決定を図っています。



クリナップグループ コーポレート・ガバナンス基本方針
https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_01.pdf

コーポレート・ガバナンスの体制図 (2023年6月末現在)



取締役会の役割・責務

当社の取締役会は、社内取締役5名、社外取締役2名（うち女性1名）で構成しており、経営方針や経営戦略の重要な意思決定を行うとともに、取締役の職務執行の監督をしています。また、社内規程により、取締役会で決定すべき事項を予め定めており、重要な業務執行にかかわる決定は、取締役会で審議、決議しています。それ以外の事項については、業務執行取締役の職務権限範囲を予め定めることで明確にしています。

さらに、年に1回、取締役会全体の実効性について評価・分析を行い、さらなる改善に取り組んでいます。

取締役の多様性

取締役会は、多様な専門知識を有する取締役でバランスよく構成しています。各取締役が保有しているスキル、および当社が各取締役に発揮を期待しているスキルは以下の通りです。

取締役・監査役のスキルマトリクス

		社外独立	企業経営・経営戦略	営業・マーケティング	生産・調達・研究開発・品質	財務・会計	法務・リスク管理	人事・労務	グローバル（国際）	IT・DX
取締役	井上 強一		●	●		●				
	竹内 宏		●	●						
	山田 雅二		●		●					
	川田 和弘		●	●		●		●		
	井上 泰延		●				●	●	●	●
	川崎 享	●	●		●				●	
	千代田 有子	●					●		●	
監査役	山根 康正					●	●			
	島崎 憲夫		●	●	●	●	●	●		●
	新谷 謙一	●					●			
	高品 彰	●				●	●			

（注）ESG・サステナビリティ、SCMIは「企業経営・経営戦略」に含まれるものとなります

監査役および監査役会の役割・責務

当社の監査役会は、常勤監査役2名と社外監査役2名で構成しています。各監査役は、専門性の高い知識と豊富な経験を活かし、取締役の職務の執行について監査を実施し、また、適法性の観点から取締役会および経営陣に対して適切に意見を述べています。さらに、社内の経理部門、内部監査部門との連携や当社の会計監査人である監査法人との「会計監査人連絡会」の開催など、積極的な情報共有を行っています。

独立役員

当社は、社外取締役2名および社外監査役2名の社外役員全員を、当社の定める「社外役員の独立性に関する判断基準」に基づき、「当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員」として認定するとともに、東京証券取引所に対し、同取引所の定めに基づく独立役員として届け出しています。

経営諮問委員会

当社は、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の強化を図るために、2019年に経営諮問委員会を設置しました。経営諮問委員会は、過半数が独立社外役員で構成（社内取締役1名、社外取締役2名、社外監査役2名）された取締役会の諮問機関であり、取締役の指名や報酬についての審議、答申を行っています。定期的、または必要に応じて臨時に開催され、取締役会から諮問を受けた事項などの審議、取締役会への答申を行います。

サステナビリティ委員会と
リスクマネジメント委員会

当社は、「サステナビリティ委員会」および「リスクマネジメント委員会」を取締役会の諮問機関として位置づけ、委員長を代表取締役 社長執行役員としています。

 社外役員の独立性に関する判断基準
https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_02.pdf

役員紹介 (2023年6月28日現在)

取締役



代表取締役会長

井上 強一

1974年7月 当社入社
 1978年3月 当社取締役
 1983年3月 当社代表取締役副社長
 1987年7月 当社代表取締役社長
 2017年1月 当社代表取締役会長(現任)



代表取締役 社長執行役員

竹内 宏

1979年4月 当社入社
 2012年7月 当社執行役員
 2014年7月 当社常務執行役員
 2016年6月 当社取締役
 2018年4月 当社代表取締役
 社長執行役員(現任)



取締役 専務執行役員

山田 雅二

1978年4月 当社入社
 2012年7月 当社執行役員
 2016年6月 当社取締役(現任)
 2016年7月 当社常務執行役員
 2018年7月 当社専務執行役員(現任)



取締役 専務執行役員

川田 和弘

1982年4月 当社入社
 2014年7月 当社執行役員
 2015年7月 当社常務執行役員
 2018年6月 当社取締役(現任)
 2019年7月 当社専務執行役員(現任)



取締役 専務執行役員

井上 泰延

2014年3月 当社入社
 2017年3月 当社執行役員
 2019年6月 井上興産株式会社
 代表取締役(現任)
 2019年7月 当社常務執行役員
 2020年6月 当社取締役(現任)
 2021年7月 当社専務執行役員(現任)



社外取締役

川崎 享

1995年10月 川崎電気エンジニアリング
 株式会社代表取締役社長
 2001年12月 シーアンドケー株式会社
 代表取締役社長
 2013年5月 株式会社エム・アイ・ビー
 代表取締役社長(現任)
 株式会社リンガーハット
 社外取締役(現任)
 2015年5月
 2016年6月 当社社外取締役(現任)



社外取締役

千代田 有子

1994年4月 弁護士登録、開業
 2002年1月 千代田法律事務所開設
 同事務所代表(現任)
 2016年6月 当社社外取締役(現任)
 2020年6月 株式会社TBK
 社外取締役(現任)

監査役



常勤監査役

山根 康正

1970年4月 松浦税務会計事務所入所
 1974年10月 当社入社
 1997年6月 当社常勤監査役(現任)



常勤監査役

島崎 憲夫

1978年4月 当社入社
 2008年5月 当社執行役員
 2014年6月 当社取締役
 2014年7月 当社常務執行役員
 2020年6月 当社常勤監査役(現任)



社外監査役

新谷 謙一

1985年4月 弁護士登録、開業
 2000年6月 当社社外監査役(現任)
 2011年6月 日清オイリオグループ
 株式会社社外監査役



社外監査役

高品 彰

1983年9月 公認会計士登録、開業
 2004年6月 明和監査法人代表社員
 2013年7月 日本公認会計士協会
 本部理事
 2019年6月 当社社外監査役(現任)

社外取締役メッセージ

企業は持続可能な社会の実現に貢献すべく、社会の一員として環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)の観点から責任ある行動をとることが求められます。当社もこのような社会の要請に応えるべく、2021年度に「クリナップサステナブルビジョン2030」を策定し、中期経営計画をはじめ各事業戦略等にこのビジョンを取り込みながら、持続可能な社会の実現に向けて日々まい進しております。

一方で社外取締役は経営陣と独立した立場から、企業のすべてのステークホルダーの利益を代表して企業活動の意思決定や経営の監視を行う役割があり



社外取締役
千代田 有子

ます。企業の持続的な成長とすべてのステークホルダーの利益向上に貢献できるよう、今後も「クリナップサステナブルビジョン2030」の実現に向け、社会的責任(CSR)を重視しつつ、コーポレートガバナンスの強化に努めてまいります。

内部統制

内部統制システムの整備

クリナップグループは、「クリナップグループ内部統制システムの整備に関する基本方針」に基づき、グループ全体の業務適正を確保するための体制整備に取り組んでいます。



クリナップグループ内部統制システムの整備に関する基本方針
https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_03.pdf

内部統制の体制

内部統制の体制は、内部統制部会のもと、全社活動として内部統制システムの整備および運用課題の改善に取り組んでいます。統制活動に係る評価を、各業務の管理部門が、監査役、会計監査人、内部監査部門と連携して行っています。また、評価の結果を共有し、一元的に取り扱うことで、全社的な改善につなげています。

内部監査

当社の内部監査は、内部監査部門が担当し、担当執行役員が承認した年度計画に基づき、子会社を含めたクリナップグループの事業所に対し、業務の適法性および妥

当性の両面から監査を実施しています。その結果を代表取締役および担当執行役員ならびに監査役などに報告しています。また、課題改善についての提言や、改善の状況についての確認などを適宜行っています。

監査役監査

監査役は、監査役監査の実効性の確保の取り組みとして、監査上不可欠な情報を十分に入手するため、取締役会、執行委員会その他重要な社内会議に出席するほか、取締役や各部門の責任者との面談や重要書類の閲覧を行っています。またグループ監査役会にて子会社監査の状況や内部監査部門からの内部通報を含めた監査の状況を定期的に受ける体制を整備しています。

コンプライアンス

クリナップグループ行動基準

クリナップグループは、コンプライアンスの徹底に向け、社員一人ひとりが自ら考え、自ら行動するための基準として「クリナップグループ行動基準」を制定し、都度見直しをしています。

「クリナップグループ行動基準」の周知徹底と理解促進を図るため、事例などによってより分かりやすく解説した「クリナップグループ行動基準ハンドブック」をすべての取締役と社員に配布しています。

内部通報制度「クリナップホットライン」

クリナップグループは、コンプライアンスにかかわる問題の早期発見と是正に、迅速かつ的確に対応するため、内部通報制度として、「クリナップホットライン」を運用しています。制度の浸透を図るため、「クリナップグループ行動基準ハンドブック」のなかに、制度の趣旨のほか、社内窓口と社外窓口(顧問弁護士)の設置を始めとする詳細を記載し、周知しています。なお、昨年度の通報件数は9件でした。また、「内部通報対応規程」を定め、運用の厳格化と通報者保護の徹底に努めています。

腐敗防止

すべての取締役と社員に配布している「クリナップグループ行動基準ハンドブック」に「汚職の禁止」などの項目を設け、周知を図っています。

反社会的勢力排除への取り組み

当社は、「クリナップグループ行動基準」において、反社会的勢力に対しては毅然とした態度で対応し、また、一切のかかわりを持たないことを定めています。2010年には「反社会的勢力排除に向けた基本方針」を制定し、反社会的勢力排除に向けた社内体制を整備するなど、全社的な取り組みを行っています。



反社会的勢力排除に向けた基本方針
<https://cleanup.jp/company/antisocial.shtml>

コンプライアンス教育

クリナップグループ全社員への継続的な教育として「行動基準ラーニング」を毎年実施し、コンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

リスクマネジメント委員会の傘下に「内部統制部会」「コンプライアンス部会」「BCP／SCM部会」を設置し、各分野の課題対応について立案し、リスクマネジメント委員会に報告する体制をとっています。

また、重大なリスクの発生またはそのおそれが生じた場合には、内部統制をはじめ、内部監査、監査役監査、会計士監査などが連携し、取締役会に報告され、速やかに是正措置が講じられる体制を整備しています。

製品安全、安全衛生、環境保全、情報セキュリティおよび雇用などの各部門の所管業務に付随するリスクの管理については、担当取締役のもとに管理体制を整え、リスクの発生や拡大防止に努めるとともに、発生またはそのおそれがある場合には直ちに担当取締役に報告する体制をとっています。

危機管理体制

クリナップグループは、自然災害など、経営に重大な損害や影響などを与える可能性のある不測の事態の発生に備え、危機管理体制の整備を推進しています。

リスクマネジメント委員会において、将来起こり得る損失の発生についての予測・低減・回避に全社的に取り組むとともに、「危機管理規程」その他関連規程による危機管理体制の確認を行うなど、企業活動における対処すべきあらゆるリスクの発生に対して事前に把握・管理し、対策を講じることとしています。

お客さま情報の保護

お客さまの重要な情報である、マイナンバー（個人番号）、個人情報、プライバシーに関する情報などについて、その保護の重要性を認識し、「個人番号及び特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針」および「個人情報保護方針」に従い、適切な管理体制のもとで取得、利用するとともに、紛失、漏えいを防止するための対応を行っています。



個人番号及び特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針
<https://cleanup.jp/policy/mynumber.shtml>



個人情報保護方針
<https://cleanup.jp/policy/privacy.shtml>

CSR調達

クリナップグループは、取引先さまと信頼関係を築き、社会的責任を果たす調達活動を目指した「調達方針」のもと「CSR調達ガイドライン」を制定し、運用しています。

調達方針

私たちクリナップグループは、取引先さまと公正、自由、透明な競争原理をもって、サプライチェーン全体で共存共栄をはかり、社会的責任を果たしてまいります。

1. 取引先さまに競争の機会を公正・公平に提供します。
2. 取引先さまの選定は、品質・価格・納期・技術開発力・安定供給能力・環境対応などの総合的な評価と適正な手続きにより行います。
3. 法令、社会的規範などを遵守し、人権、安全衛生、環境など社会的責任を果たす調達活動を行います。
4. 取引先さまと相互理解を深め信頼関係を大切にしていきます。

(2020年9月1日)

CSR調達ガイドライン

クリナップグループは、取引先さまとともに社会からの期待に応え、責任ある調達活動を行っていくため、「クリナップグループCSR調達ガイドライン」を2020年9月に制定しました。本ガイドラインは、クリナップグループが調達活動において取引先さまにお願いする事項を9項目にまとめたものです。

ガイドラインを各取引先さまへ送付し、同意確認を行うなどして本ガイドラインの主旨についてご理解とご協力をいただき、公正で透明なCSR調達を推進していきます。

グリーン調達

2007年度から、取引先さまにグリーン調達のアンケート調査を実施し、取引先さまの環境保全活動の取り組み状況を確認しています。取り組みのランクに応じた支援活動を行い、取引先さま全体の環境保全に対する底上げを実施し、環境に対する社会的要求をサプライチェーン全体で取り組む活動を行っていきます。

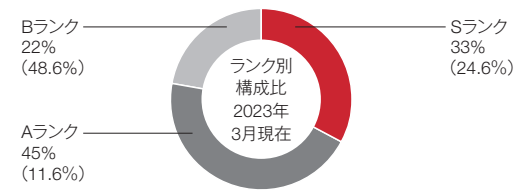
アンケート調査／現地調査

	調査項目	取引先さま
クリナップ 購買部門	1. 環境面での経営者の責任意識 環境方針、環境計画の策定、 情報公開などの環境経営力 など	〈OEMメーカー〉 相手先仕様の完成品
	2. 環境技術力 開発・設計、省エネ、公害対 策、省資源、リサイクルなど	〈部品・材料メーカー〉 部品・材料
	3. 経費節減対策 省エネ・省資源	
	4. その他 物流管理、廃棄物管理、 オフィス環境管理など	〈外注先〉 クリナップ仕様の 完成品、半完成品

調査結果集計

	ランク	環境取組 企業レベル	意味
グリーン 調達の指標	S	高度レベル	環境保全活動が投資を含めて 積極的に行われている企業
	A	上級管理レベル	環境保全活動が積極的に行わ れている企業
	B	中級管理レベル	管理体制はおおむね構築され ており、省エネ・省資源活動を 積極的に取り組んでいる企業
	C	初級管理レベル	管理体制はやや構築されてお り、可能な範囲で省エネ・省資 源活動に取り組んでいる企業
	D	指導レベル	管理体制はやや構築されてい るが、省エネ・省資源活動の取 組みが遅れている企業
	E	重点的指導レベル	管理体制の構築、および環境 保全活動が全般的に遅れてい る企業

環境取組企業ランク構成比



(注)数値は2022年度。()内は2020年度を示します。
アンケート調査は2年に一度実施。

2020年度はCランクが15.2%でしたが、2022年度は取引先さまが環境活動を積極的に取り組まれたことからBランク以上となり、Cランク以下は0%になりました。

クリナップによる取引先さま
D、E ランク企業の格上げ支援活動
(環境活動の具体例を提示し、意識づけを行う)

取引先さまCランク以上を維持する

人権の尊重

クリナップグループは、人権の尊重を企業活動の基盤であると考え、当社にかかわるすべての人の人権に配慮した活動を推進しています。

2022年度、人権の取り組みを強化するため、人的資本分科会の傘下に人権WGを設置しました。また、「ビジネスと人権」について役員を含む社内の理解を深めるため、外部講師によるオンラインセミナーを開催し、人権尊重の取り組みにおける企業に求められる対応を共有しました。それをふまえ、2023年度、下記のプロセスを通じて「クリナップグループ人権方針」を策定、取締役会の承認により制定しました。人権方針では、ビジネスパートナーの皆様にも本人権方針を支持していただけるように働きかけること、人権デューデリジェンスの実施体制を整備すること、人権リスク低減に向けた継続的な取り組みなどについて明記しています。

人権方針の策定プロセス

1. 人権を取り巻く世界情勢や「ビジネスと人権に関する指導原則」などの国際規範をもとに人権WGにて、人権方針に求められる要素を精査

2. クリナップグループの人権に関する現状・課題と照らし合わせた上で人権方針案を作成

3. サステナビリティ委員会に上程

4. 取締役会に上程、承認により制定

人権方針 前文(抜粋)

私たちクリナップグループは、創業以来キッチンをはじめとする水まわり商品をつくり家族の暮らし方を提案してまいりました。“私たちは何のために存在し、企業活動を続けるのか”。この基本となる考えを表すのが企業理念「家族の笑顔を創ります」であり、クリナップの企業活動のすべてが、この理念の実現に向けられています。そして私たちは、『クリナップサステナブルビジョン2030「人と暮らしの未来を拓く」』を掲げています。社会とともに新しい未来をつくっていくため、社会の一員として人権尊重の重要性を認識し、人権尊重の責任を果たすべく取り組みを推進していきます。

(2023年9月1日)



人権方針

<https://cleanup.jp/policy/humanrightspolicy.shtml>

社会とのかかわり

クリナップグループは、スポーツや教育、食育などの文化活動を通じて持続可能な社会の発展に貢献します。

レスリング部と

クリナップキッズいわきレスリングクラブ

クリナップは1992年にレスリング部を創部し、企業スポーツとして、世界を目指すアスリートの支援を行っています。現在、東京オリンピック女子76kg級で5位入賞した皆川 博恵選手を筆頭に3名の選手が活躍し、生産拠点がある福島県いわき市では、地域の小中学生を対象とした「クリナップキッズいわきレスリングクラブ」の運営を支援しています。



活動の詳細はWEBをご覧ください。

<https://cleanup.jp/wrestling/kids.shtml>



皆川選手による技術指導

クリナップ財団の奨学支援

東日本大震災で被災し、操業停止を経験したクリナップは、早期復旧に向けご支援いただいた地域の皆さまに感謝の気持ちを伝えるため、震災の翌年・2012年に福島県内における被災地復興支援の一環として「公益財団法人クリナップ財団」を設立しました。福島県出身者で福島県内の大学、高等専門学校などに進学する、学業優秀で向学心旺盛ながら、経済的な理由で就学が困難な学生を対象に、給付型奨学金制度を設け、奨学支援を行っています。2013年より開始し、2023年度までの11年間で累計奨学生は460名となりました。



奨学金授与式に参加した学生

キッチン白書

クリナップは企業理念「家族の笑顔を創ります」のもとで、もっと食を、家族を、暮らしを、深く知り、考えていくために「食、物、空間」をテーマにさまざまな切り口で調査し、その結果から見てきた生活者の“いま”を『キッチン白書』として2017年から公開しています。「キッチン白書2023」では、キッチンで出るゴミの実態について調査した結果を紹介しています。



キッチン白書2023

<https://cleanup.jp/oikura/pdf/kitchen-hakusyo2023.pdf>

未来キッチンイラストコンテスト

クリナップが創る「未来キッチン」は、世代を超えて夢を描き続けるものだと考えています。そこで未来をつくる子どもたちと一緒にこれからのキッチンを考える「未来キッチンイラストコンテスト」を開催。子どもたちがサステナブルについて学びきっかけをつくり、誰もが笑顔になれるキッチンの未来を共に模索していきます。



未来キッチンイラストコンテスト

<https://cleanup.jp/miraikitchen/contest/>

第三者意見

サステナビリティ経営に求められる期待は、近年加速度的な高まりを見せているといつてよいでしょう。2023年には、有価証券報告書にサステナビリティに関する考え方及び取組の記載が要請されることとなりました。法定書類における情報開示が求められるようになったことは、これまでとは次元の異なるサステナビリティ経営運用を企業に迫ってくることになるでしょう。

2023年6月に開示されたクリナップの有価証券報告書にも、ガバナンスとして代表取締役社長執行役員を委員長とするサステナビリティ委員会とリスクマネジメント委員会が設置運用されていること、戦略の構成要素としての「クリナップサステナブルビジョン2030(CSV30)」や人材育成基本方針の紹介、リスク管理としてグループ全体でのリスク低減活動、指標及び目標の設定状況としての温室効果ガス削減計画や、女性管理職比率、男性育児休業取得率の目標と2023年3月期の実績が紹介されています。さて、法定開示書類にサステナビリティ情報が記載されることとなった今年、法定開示の後に公表されるサステナビリティレポートには、どのような変化が訪れているのでしょうか。そのような視点から興味深く拝見しましたが、今年のサステナビリティレポート2023は、サステナビリティ経営の詳細をより深く理解することのできる内容に進化していました。

気候変動など環境課題に対応するため「クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)」が策定されました。取り組むべき三本柱として、気候変動への対応、資源循環の推進、水資源の有効利用が全社共通の課題であり、環境課題解決の方向性が明示されています。活動の実績報告として、Scope1,2合計が2022年度実績19.8千t-CO₂となり、2013年度比42.6%削減となったことが示されました。2030年度にScope1,2合計を2013年度比50%削減とするという現在の目標に対し、着実

な進捗となっているように受けとめました。事業を推進する上で欠くべからざる上・下流で発生するサプライチェーン温室効果ガス排出量Scope3についても算定結果が記載されています。今後、SBT認定を取得する計画があるとのことですから、SBTが要請するScope3まで含めた、より高い目標設定がなされていくことでしょう。

人財関連KPIとして掲げた女性管理職比率、男性育児休業取得率、有給休暇取得率に対しても、2022年度実績が掲載されています。社長のメッセージとして、女性活躍の進捗が大きな課題であると認識、女性社員が将来のビジョンを描ける会社であり続けられるよう職場環境の整備に努めていくとのことでした。

人権尊重の取組としては、2022年に人権WGが設置され、人権を取り巻く世界情勢の理解を深めたことにより、直近2023年9月に「人権方針」が制定されています。クリナップが事業を推進する上で社会に影響を及ぼす変化を俯瞰、サプライチェーン全体を範囲に人権との関わりを認識、評価、活動していくことが求められます。「人権方針」の公表をスタートに、人権デューデリジェンスが推進されていくことを期待します。

クリナップならではの取組として、産学共同研究「未来キッチンラボ」の活動内容を興味深く拝見しました。人と社会の豊かな未来を視野に、地域コミュニティで機能する「脱LDK」キッチンという新しい考え方を導入、循環ろ過装置を備えることで、非常時・災害時にも持ち運んで地域互助に寄与する移動可能なキッチンを試作、イベントでのデモンストレーションを開始したとのことです。CSVが掲げる重点指針のひとつ、持続可能な社会の実現に貢献するという重要なミッションに向けての、素晴らしい取組みです。



公認会計士。1996年より大手監査法人にて環境経営やCSR全般のコンサルティング、検証業務のマネジメントに携わる。2006年独立。株式会社サステナビリティ会計事務所を設立し、CSRへの取り組み支援や評価向上支援などを継続して行う。2008年、各種レポート制作をワンストップで直接請け負うサスティビー・コミュニケーションズ株式会社を設立。CSR・財務双方にわたる広範なノウハウを活かし、企業の自主的かつ健全な情報開示をサポート。著書に企業のサステナビリティとESGを1冊に詰め込んだ『CSRエピソード』(幻冬社)、『ストーリー オブ サステナビリティ』(風詠社)がある。

株式会社サステナビリティ会計事務所 代表取締役／公認会計士
福島 隆史 氏

会社概要

クリナップは、1949年、座卓を製造販売する事業から始まりました。その後、システムキッチンメーカーへの事業シフトをしてから、暮らしのなかに新製品を送り出し続け、新しい暮らしを提案し、今では、システムキッチン、システムバスルーム、洗面化粧台などの水まわり住宅設備機器の専門メーカーとして事業活動を行っています。

企業データ (2023年3月31日現在)

(社名)	クリナップ株式会社
(英文社名)	Cleanup Corporation
(代表者)	代表取締役 社長執行役員 竹内 宏
(本社所在地)	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
(創業)	1949年10月5日
(会社設立)	1954年10月5日
(上場)	東京証券取引所 プライム市場
(資本金)	132億6,734万円
(決算期)	3月31日(年1回)
(従業員数)	3,456名(連結)
(事業内容)	厨房機器／システムキッチン、流し台など 浴槽機器／システムバスルーム、人工大理石浴槽、 ステンレス浴槽など 洗面機器／システム洗面化粧台、洗髪洗面化粧台、 洗面収納キャビネットなど その他／その他住宅設備機器

クリナップグループ

国内 本体および連結子会社7社

クリナップ株式会社
株式会社クリナップステンレス加工センター(生産)
井上興産株式会社(商社)
クリナップロジスティクス株式会社(運輸)
クリナップテクノサービス株式会社(取付・設置・サービス)
クリナップキャリアサービス株式会社(人材派遣・介護)
クリナップハートフル株式会社(障がい者雇用)
クリナップソリューション株式会社(情報システム)

海外 連結子会社1社

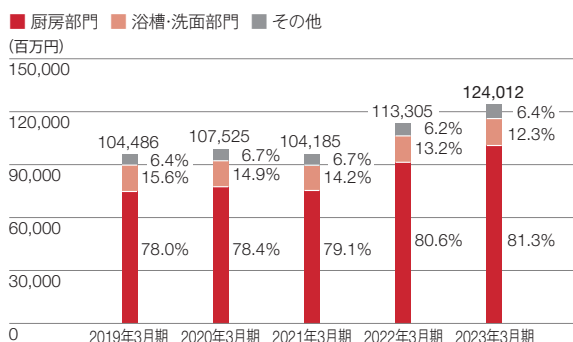
可麗娜厨衛(上海)有限公司(原材料および商品の販売)

業績の推移

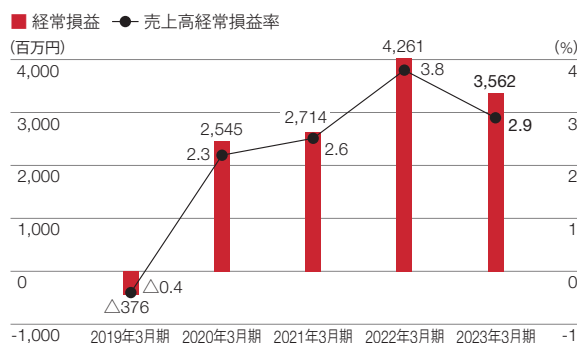
売上高(連結)



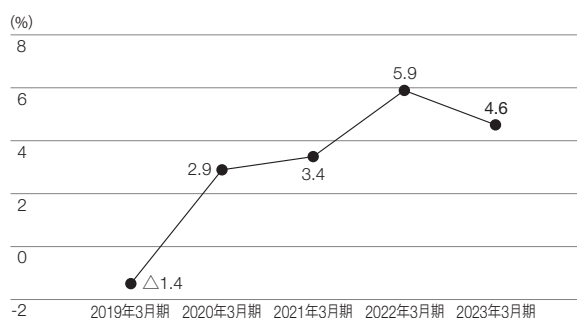
売上構成 部門別(連結)



経常損益／売上高経常損益率(連結)



ROE(連結)



クリナップ株式会社

<https://cleanup.jp>



この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。



P12D0031301B
この印刷物は、リサイクル印刷版を
使って印刷しています。

この印刷物はサステナブルな社会の実現を目指して、
適切に管理された森林およびその他の管理された供給
源由来のFSC®認証紙を使用し、Scope1とScope2の
CO₂をゼロにしたカーボンゼロプリント工場で印刷して
います。